

詰
んでる
元

悪役令嬢は

ト
S
王子様

から

2

逃げ
出
したい

〔原作〕

うすいかつら

〔作画〕

かーみら





詰んでる元悪役令嬢は

ドS王子様から2

逃げ出したい

〔原作〕うすいかつら

〔作画〕かーみら



Characters



リーンハルト

乙女ゲームの攻略キャラクター。クレス王国第一王子にして王太子。真面目な性格だが、アンナの前ではDSになる。



アンネリーエ(アンナ)

ある日突然乙女ゲームの悪役令嬢に転生してしまった。中身はごく普通の社会人・杏奈。お人好しで、ちょっと抜けている。リーンハルトの妻として、必死にお妃修業中。



エラ

アンネリーエに仕える、優秀な侍女。





Story



読書とゲームが趣味のごく平凡な社会人、^{とび た あん な}飛田杏奈は
18禁乙女ゲームである『クレス秘恋伝』にハマっていた。

するとあるとき突然プレイ中に意識が遠くなり——
そのゲームの悪役令嬢・アンネリーエに転生してしまう。

しかも攻略キャラクターである

リーンハルト王子の妻になっていた！

アンネリーエとしての記憶がないため、

なんとか離縁してもらうおうと説得するも、

以前の高飛車な様子から一転、泣き顔や恥じらう反応が、

リーンハルトのドS心に火をつけてしまい、

毎晩激しく抱かれることに！

あっさりアンナの正体を見破ったものの、

お妃修業をすることを条件に、

これからも妻としてそばにいることを許してくれたリーンハルト。

彼の王子としての真面目で真摯な一面や、たまに見える優しさに、

アンナも惹かれていく——。





Contents

第 5 話 005

第 6 話 031

第 7 話 055

第 8 話 077

第 9 話 107

第 10 話 127

✂ 第 4.5 話 ✂ 141

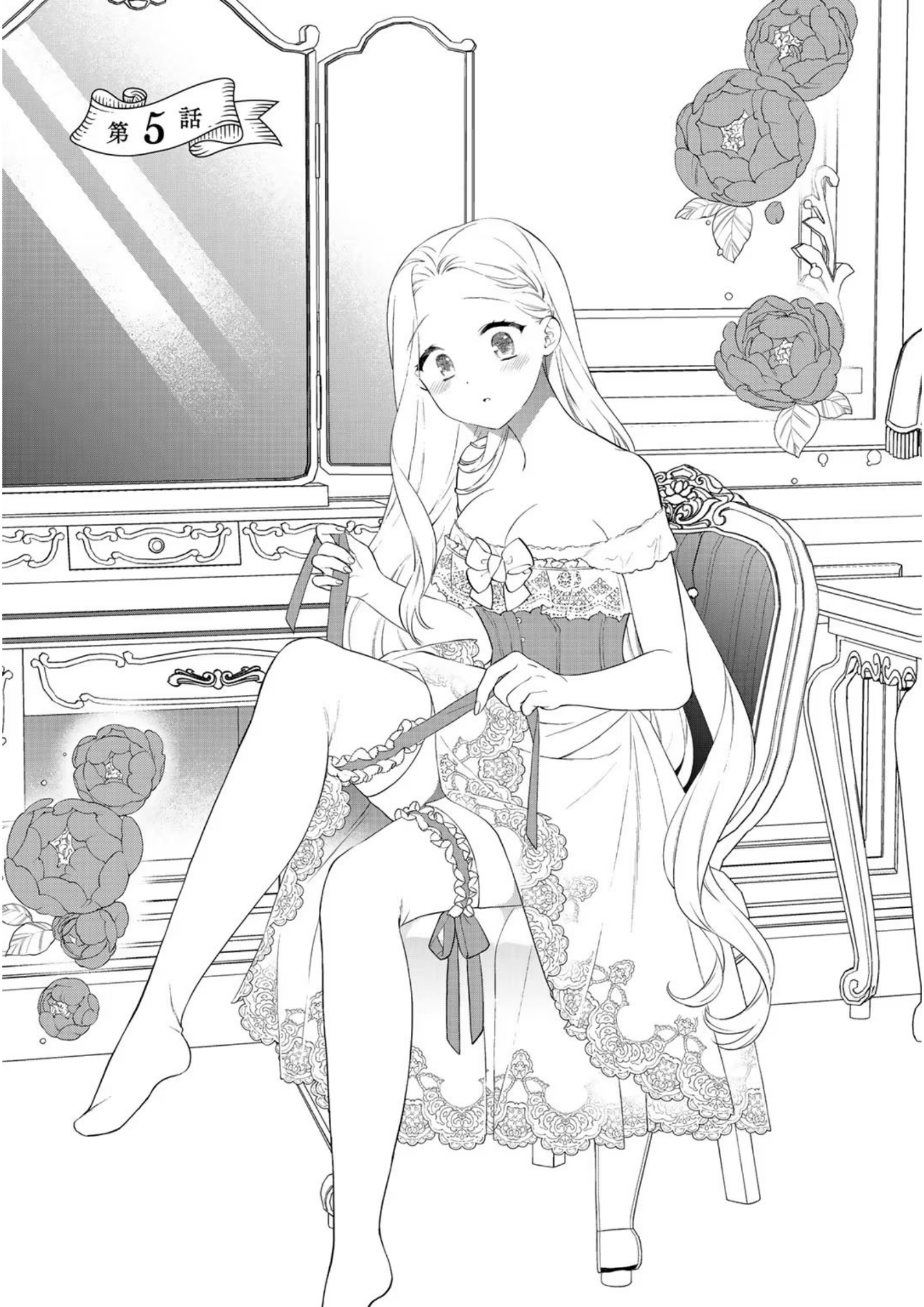
書き下ろし小説

「扉を閉めて」

145



第 5 話



アンネリーエの体で
目覚めて一カ月余り

今回初めて
公式の場である夜会に
出るようになった

エ：エラさん
わたし：

夜会なんて…
まだ：

大丈夫ですわ！
アンネリーエ様！

大丈夫…
なんかじゃ…

毎晩
リンハルト様に
抱き潰されて

全然お妃修業
できてない…!!

全然人前に
出れる

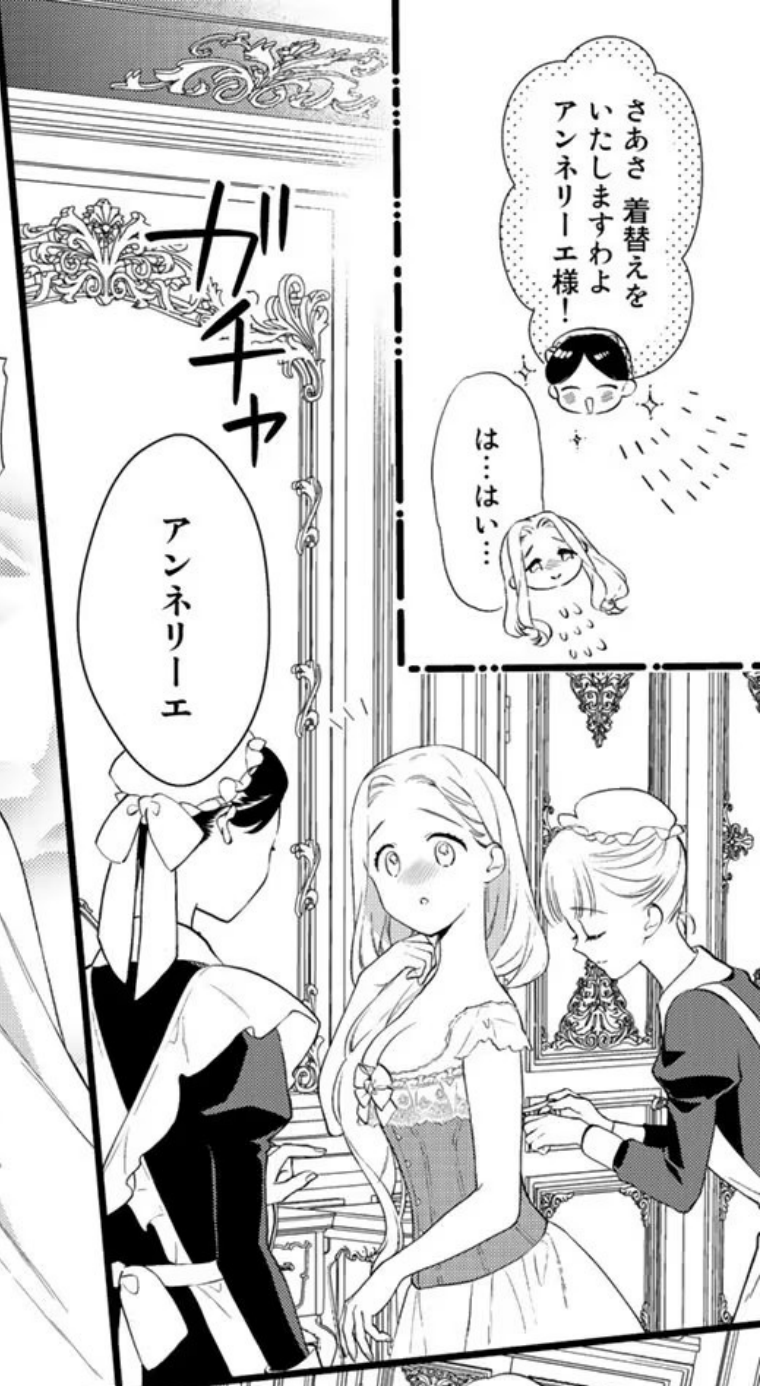
なみだ
しゅんじゅん
!!!





えっ

リンハルト様…!?



アンネリーエ

さあさ 着替えを
いたしますわよ
アンネリーエ様!

は…はい…



どうしたのですか?
わたしまだ…

よい

かまゆぬ

お前たちは
出ていろ

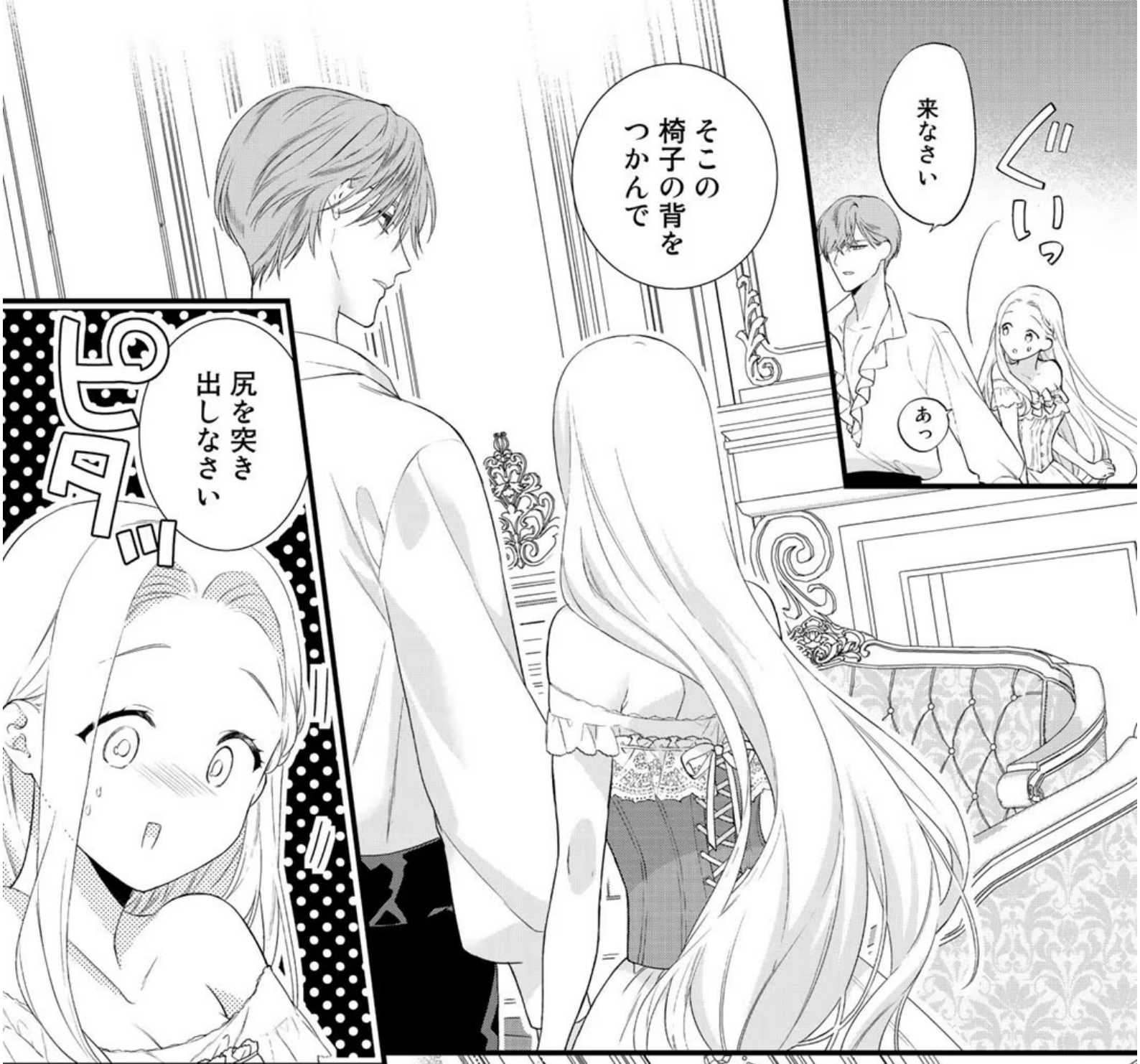
かしこまり
ました



行かないでええっ

あつ待つ…!!
エラさああん!!

バタッ





私の命に——…
従えぬのか？

う……

それを
言われると…



抵抗する
術はない…
…アムは…

わかり
ました…



本物の
王太子妃では
ないのに

見逃されている
わたしに…



ここ……
こう……
ですか？

ああ
そのまま
いなさい

これは
媚薬ではないぞ

媚薬……は

まっ……
待……
っ……
て……
く……
だ……
さ……

あっ

香油だ

✖

前と…
後ろ…っ

しゅ
しゅ
しゅ
しゅ
しゅ

ちゅ

♪ ちんぽぽ

グ
チュ
♡

おっちゃん♡

h_{11}



はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

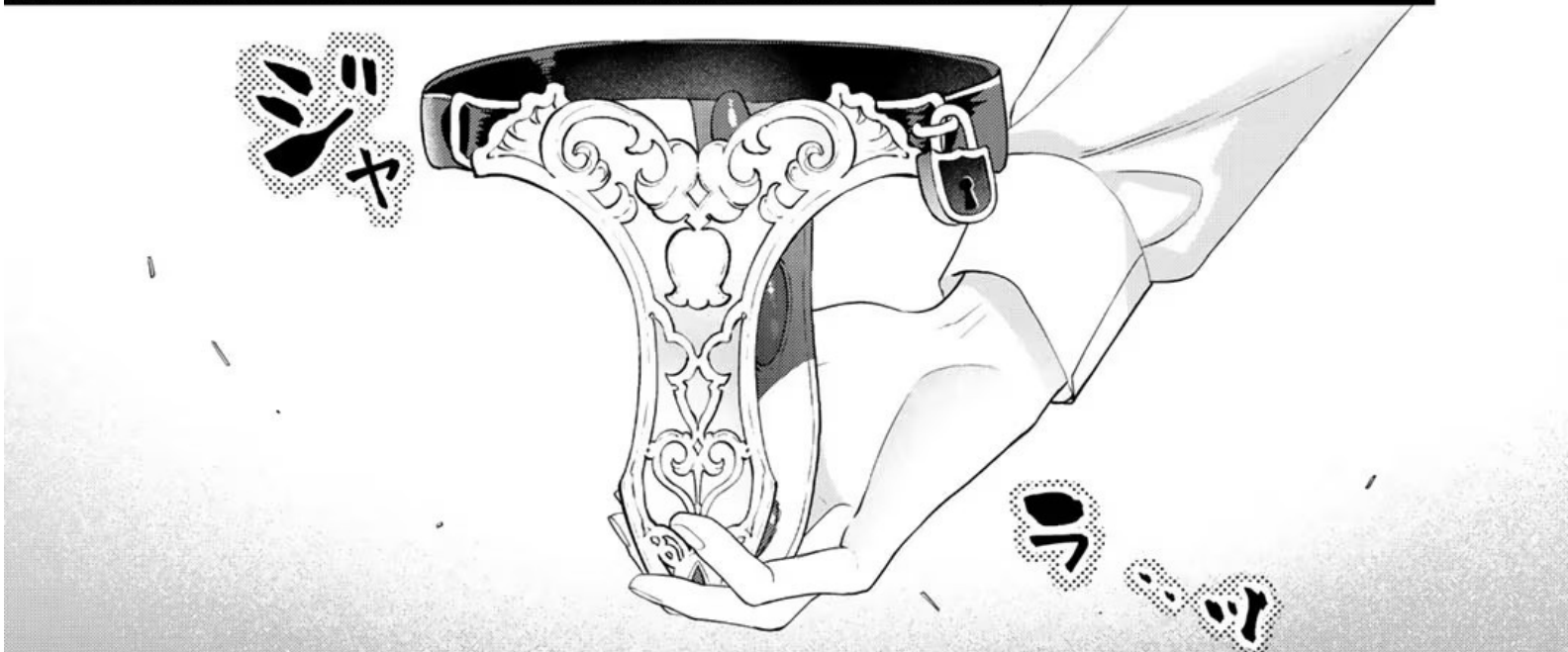
はっ

はっ

はっ

はっ

そなた



待…っ

そんなの…
挿れたら

あっ
歩けません！

だって…これから
夜会だよ…!?

—…これを
着けねば

そなたを外には
出せぬ

先日街に行ったときの
そなたはかなり
無防備だったぞ

そ…それは…

楽しくてつい…

夜会には出さねば
ならぬが

そなたはぼんやり
しているからな



きゃ

穴に蓋を
しておかねば

あつという間に
他の男に暗がりに
連れ込まれて

犯されそうでな

くほっ♡



はっ

—!...

くくくく

は...

も...もしかして...

口答えは
許さぬ

そんな...こと...っ

— 昨晚 — …

今日のために…
お尻…

この一週間
よく我慢
したな

お腹…

苦…し

あ

フラッ

は

は

は

あぁっ
ハス

この張り型が
そんなに気に入ったか？

違…っ

るるる

す

る

あ

あ

す

るるる





もう少し…だ…っ

ドチュッ

はー

リン…
ハル…トさま…あつ

はー

はー

はー

リ…

よろしい…

はー

アンナ

はー

はー

はー

あ

ん

あ...

あ...

そんな...嬉しそうな
顔をされると...

わたしまで...

よく
頑張ったな...







随分と感じて
いるではないか

腸壁越し...?
に...擦...れて

—...そんなに
気持ちいいのか?

そ...んな
こと...っ

わたし...Mじゃ
ないはず...だから...

[illegible]

貞操帯で

感じ...たり
なんて——っ

はっ...

ヒクッ

かおあわわ

貞操帯で

感じ…たり
なんて——っ

はっ

にゅにゅ

かおあおあ

貞操帯で

感じ...たり
なんて——っ

はっ...

ヒクッ

かおあわわ

[illegible]

貞操帯で

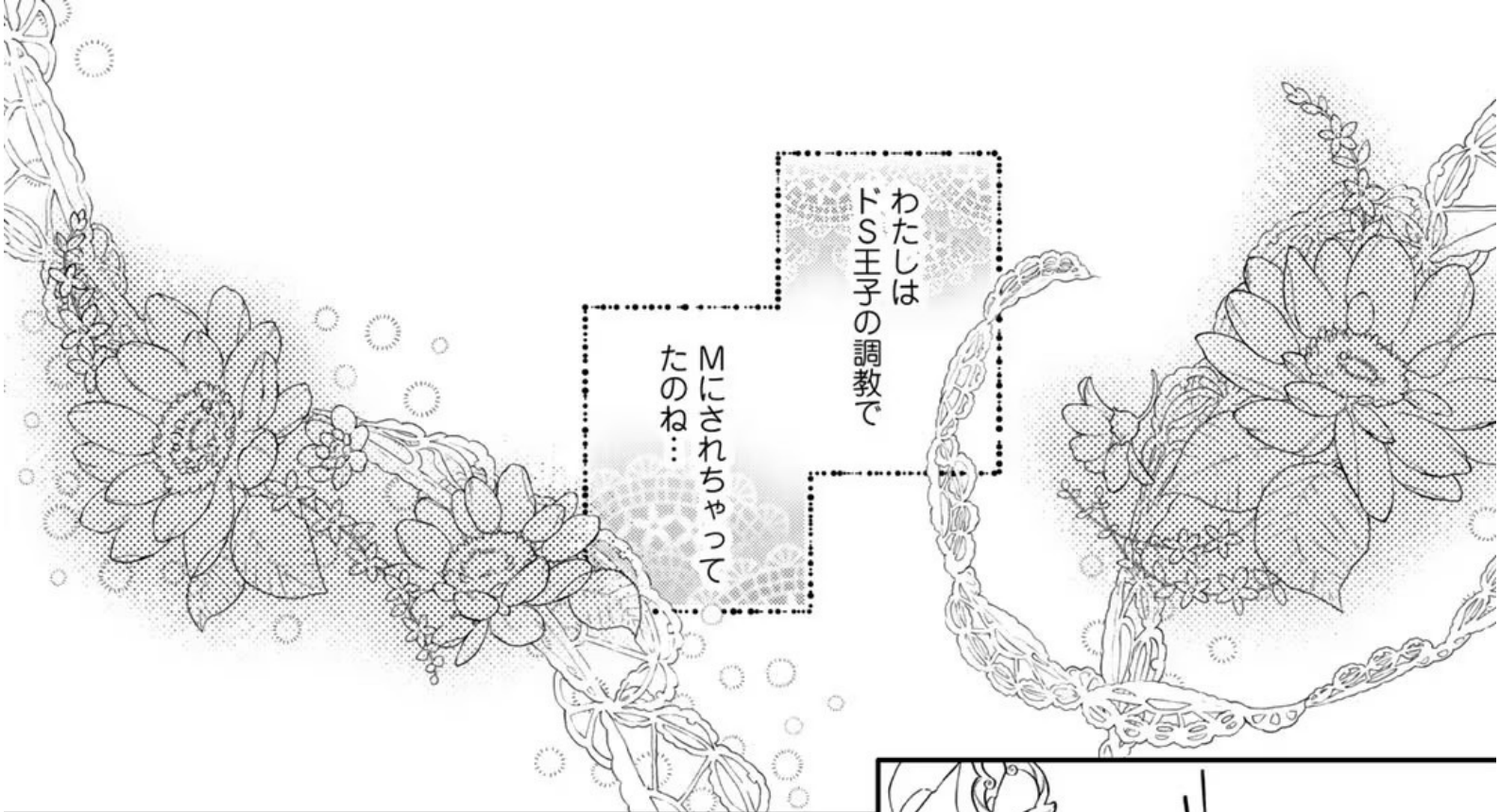
感じ...たり
なんて——っ

はっ...

ピクッ

かおあわわ

[illegible]





流石はアンネリーエ様
お美しいですわ

さ…
さぼりたい

おごめんね、サボ

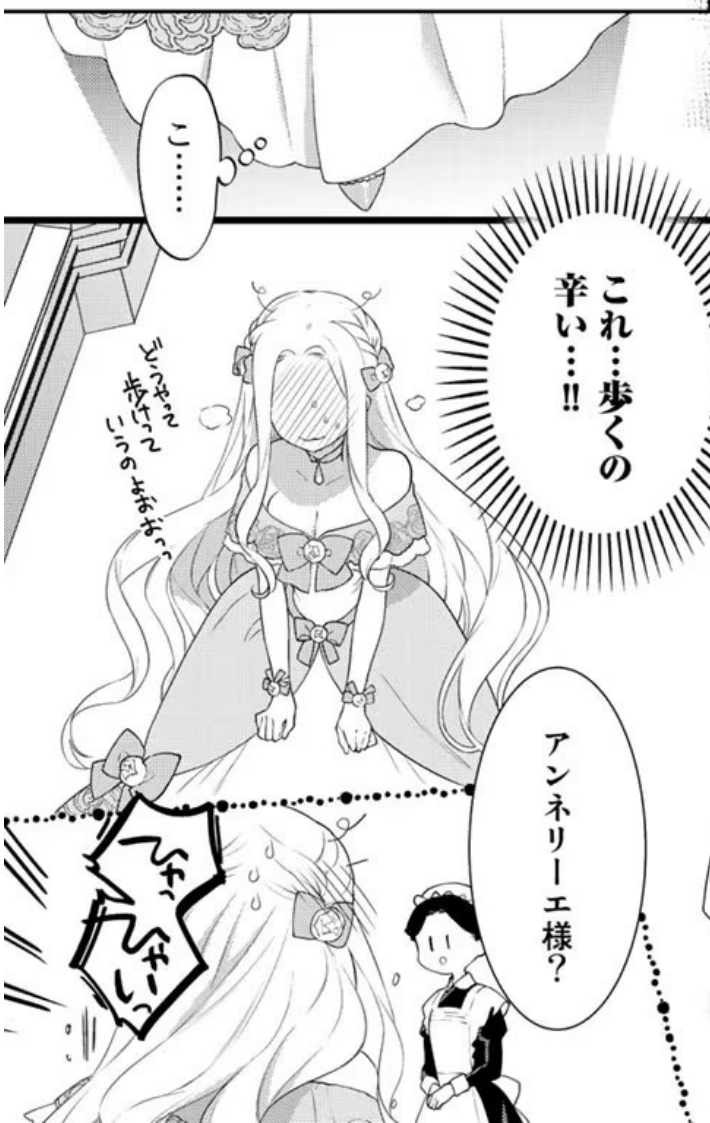


今までは
「王太子妃は療養中」で
押し切っていたけど

今夜ばかりは
ダメなんだよね…

生存報告的な
意味で…

では参りましょう



これ…歩くの
辛い…!!

アンネリーエ様？

こ…

いっせん
歩いた
このお姫さま

てんがー
んがー
いー



え

バルナバーシュ
王子殿下が
いらっしゃって
おります

今日は
バルツアルより

きょう
今日は
どこの国の方が
いらっしゃってるん
でしたっけ？



おっと

あ…

バルナバーシュ
殿下って
攻略対象の…!?

ヒロインと
リンハルト様に
すごく執着していた彼!?

アンネリーエ様



具合が
悪そうだが――…

大丈夫か？

おや――…

これは――…

アンネリーエ様か

バルナバーシュ
殿下……!?

夜会に参られるのか

は…はい

リンハルト殿が
いらっしやらないなら

控室まで
お送りしようか?

ど…
どうしよう

これ…断って
いいの…?

断れよー!?





第 6 話





控室まで――…

お送りしようか？



バルナバーシュ殿下は
元のアンネリーエを
知ってるはず…

迂闊^{うかつ}に話をして
バレたら…

アンネリーエ様…



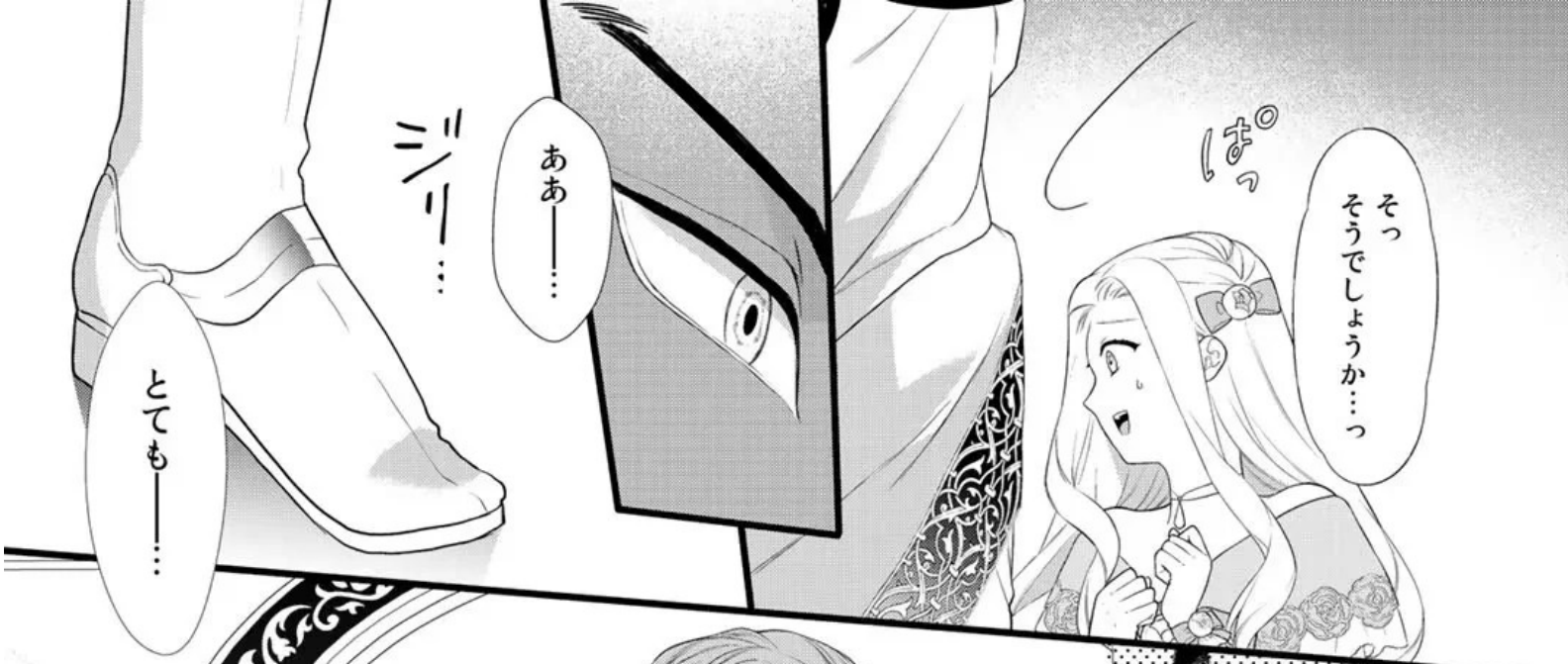
しばらくお会いしない
間に…何やら
雰囲気が…

ふむ…



喋らなくても
バレそう—!!

ひええええ



ニ
リ...

ああ—...

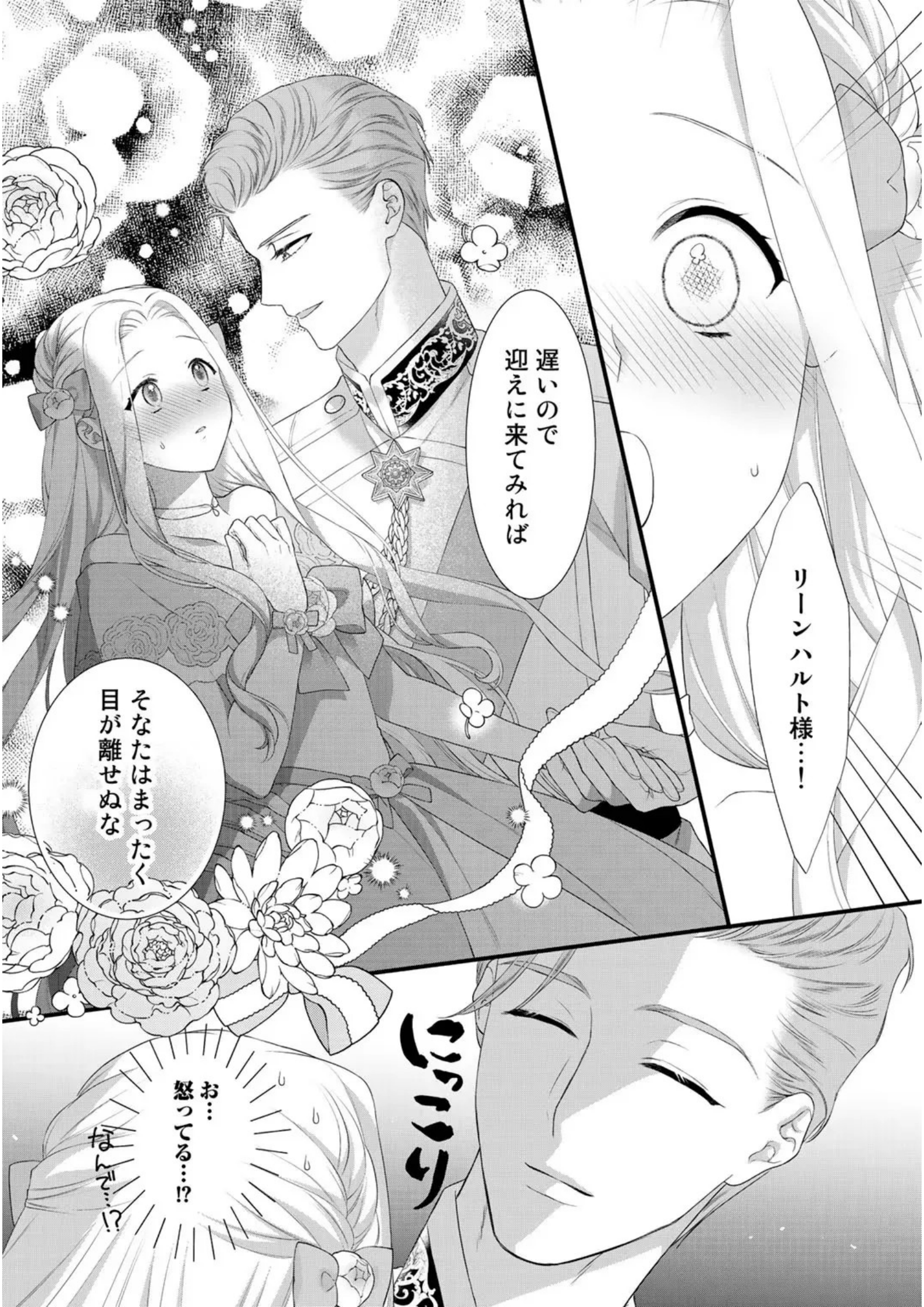
はっ

そっ
そうでしょうか...

とても—...



そこで何をしている



遅いので
迎えに来てみれば

リーンハルト様…!!

そなたはまったく
目が離せぬな

お…
怒ってる…!!

なに…!!

ズン

これはリーンハルト殿
誤解しないでくれ

アンネリーエ様は
具合が悪かった
ようだよ

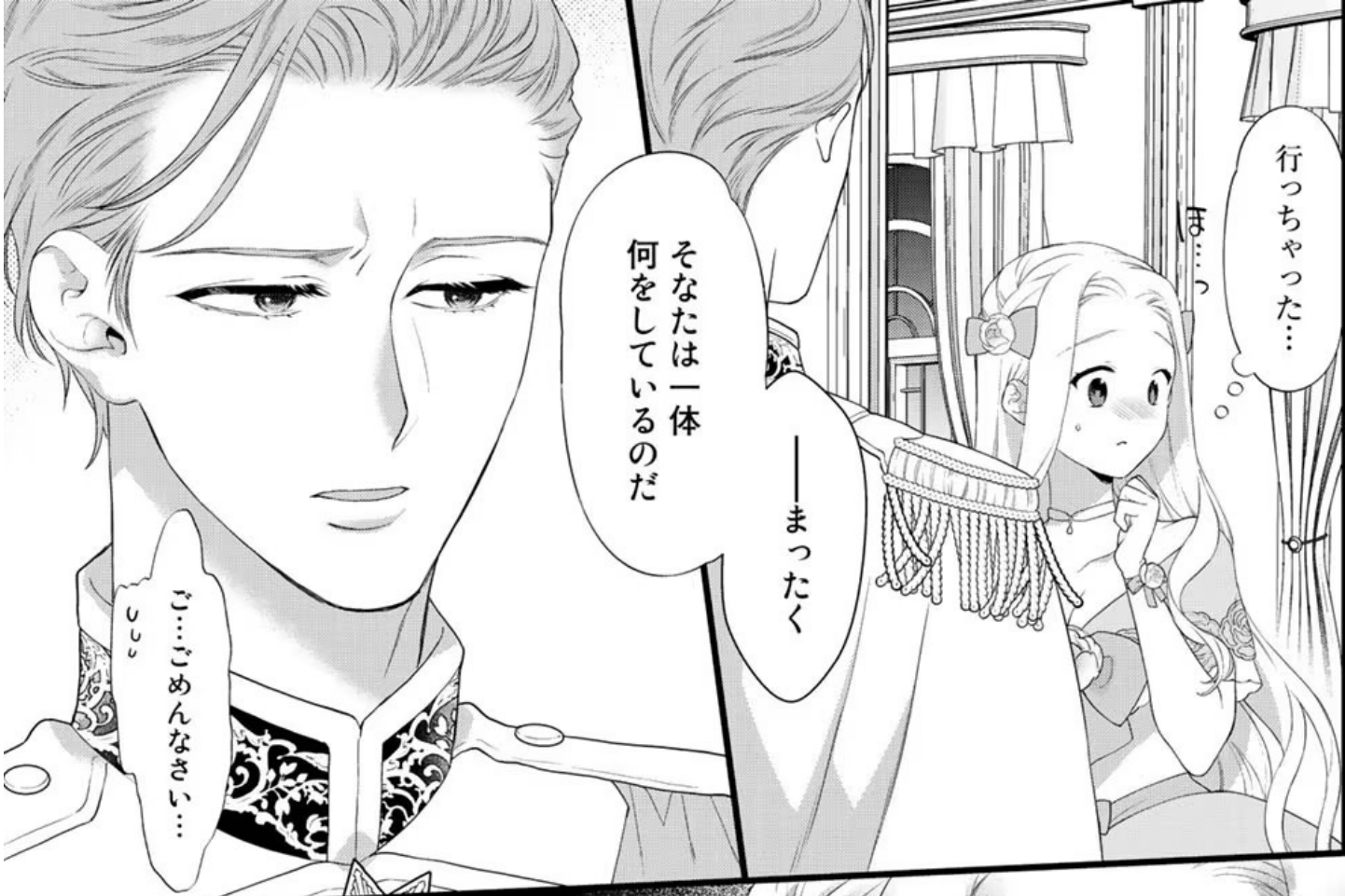
ああ…手数をかけた
バルナバーシュ殿

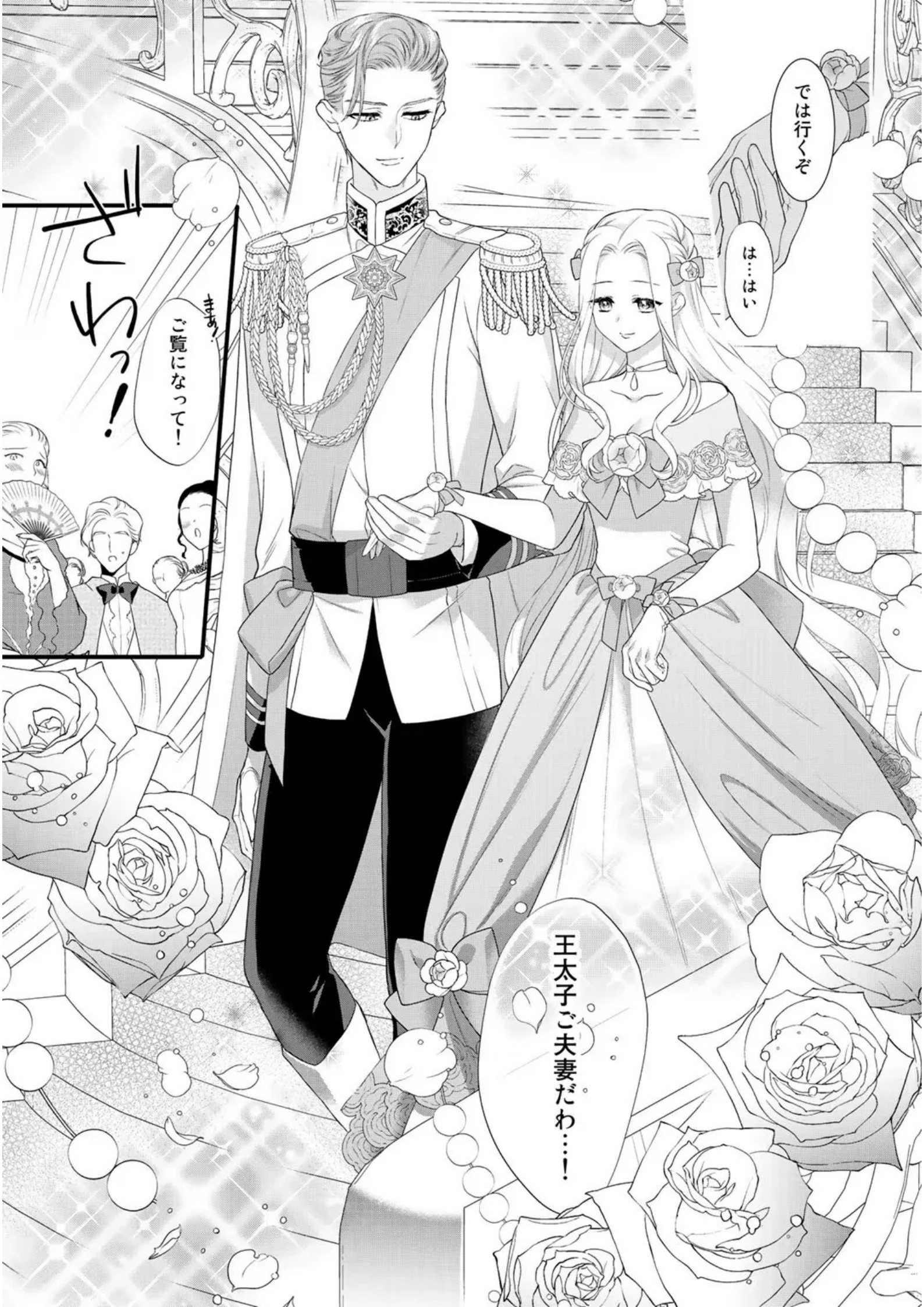
——アンネリーエは

控えの間で
少し休ませてから
夜会に出させる
ことにしよう

それがいい

……では夜会で
改めてご挨拶させて
いただくよ





では行くぞ

は…はい

ご覧になって！

王太子ご夫妻だわ…！



脚の間の
アレが擦れて

辛いから
です…!!

ふる

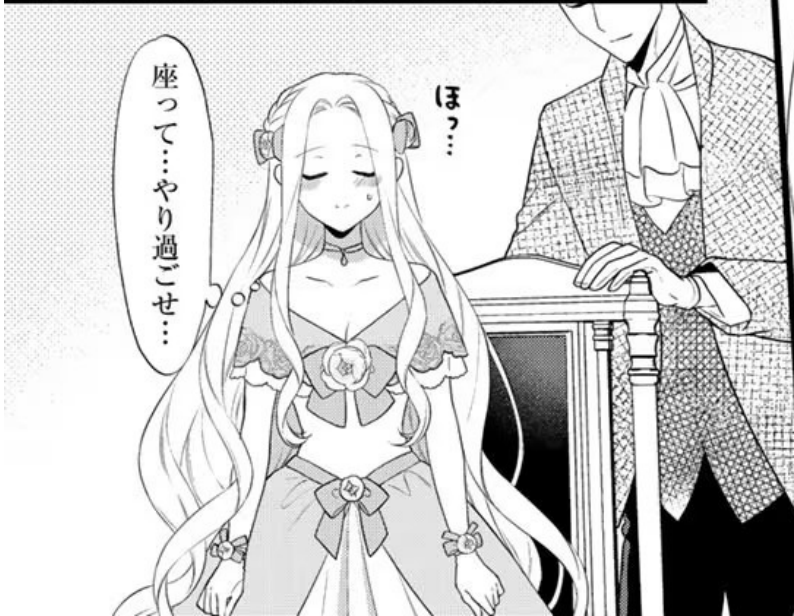


アンネリーエ様
だわ…!!

療養中と聞いていたけれど
だいぶお元氣になられた
みたいだな



なんとかあそこまで
行ければ…!!



座って…やり過ごせ…

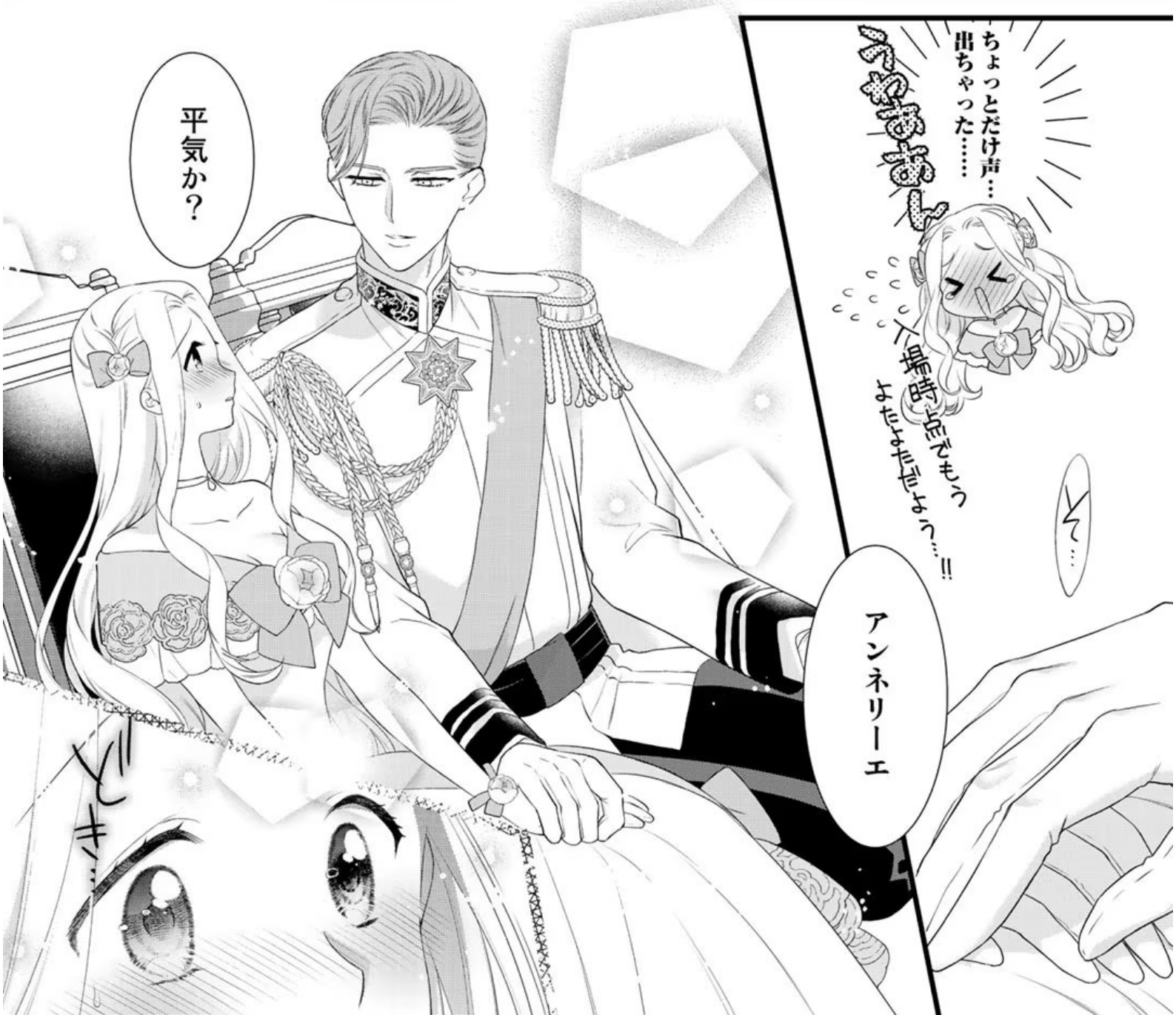
ほっ…

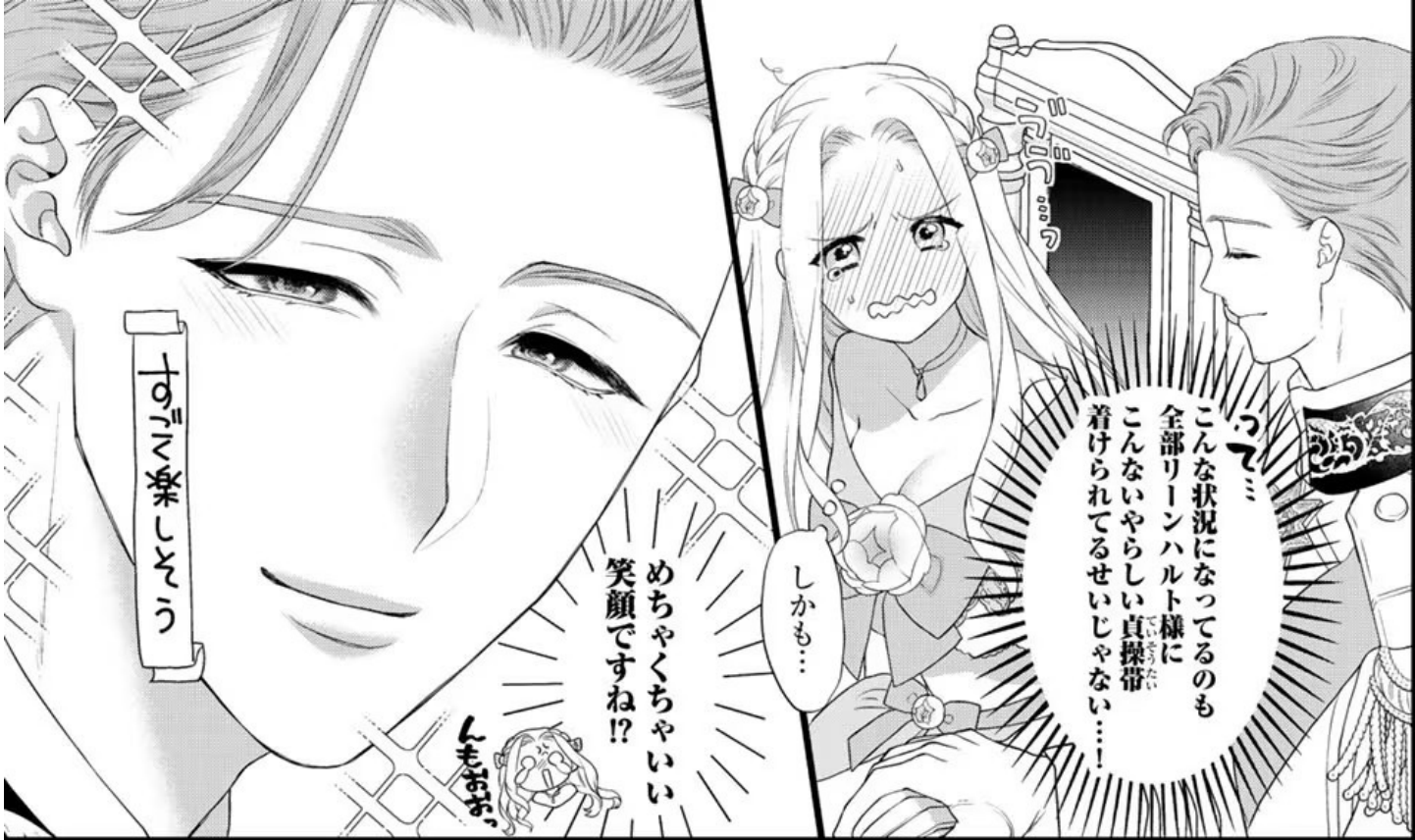


しかしまだ
お身体の具合は
よくないのかしら

顔が少し赤くて
いらっしやる…

違います…!!





すげえ楽しそう

めちやくちやいい
笑顔ですね!?

んもあず

しかも…

って…
こんな状況になってるのも
全部リーンハルト様に
こないやらしい貞操帯
着けられてるせいじゃない…!



まあ…
あんなに見つめ合って…

お二人は以前より
とても仲が良くなり
ましたわね

リーンハルト様の
あのような笑顔
初めて見たな

わたしも勘違いしそうになる…



そんな…風に
リーンハルト様に見つめられると…

でも…

リーンハルト様にとって
わたしは鬨り甲斐のある
調教対象で…

政略結婚の
相手なだけ…だから

きっとわたしのことなんて…

ズキーン…

ままだとどきまの
ままだとどきまの
ままだとどきまの

ドSなのに
優しくしてくるから…

まど
惑わされちゃうのよ

不幸中の幸いか
自分で歩き回らなくても
向こうから挨拶に
来てくれた

後はリーンハルト様が
受け答えしてくれる

わたしは
お見舞いの言葉の
返事をするときに

ご心配を
おかけしましたわね

とだけ言えばいい
とのことだ

ほ…

本日は歓迎の宴をありがとう
リンハルト殿

先ほどはどうも
アンネリーエ様

きつ 来た——っ!!

今回の
ラスボス!!





息災なようで何よりだ
バルナバーシュ殿



な…なんか凄い
緊張感が…っ

あらや

2人共 突撃だぞ…!!



やはりこの時期の
クレス王国の風は
過ごしやすくていいね

バルツアル王国が
暑いのは仕方があるまい

ははは！
冷たいな！



ところで……

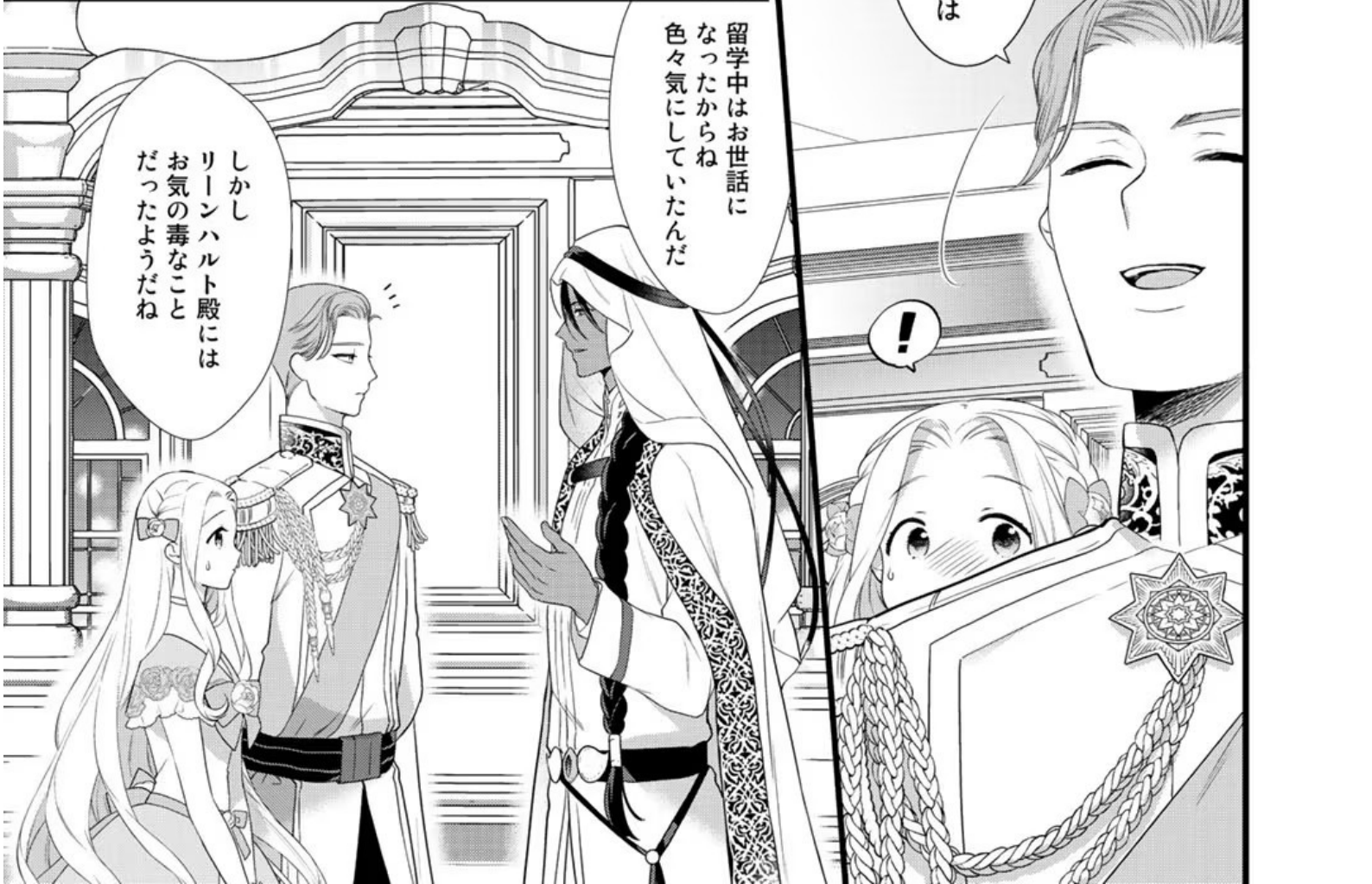
大変だったそうだね
アンネリーエ様

!!!



調べてた……って
こと……!?

この国に来たばかりなのに
わたしに何かあったって
知ってるってことは……



耳が早いな
バルナバーシュ殿は

こ…

すっ

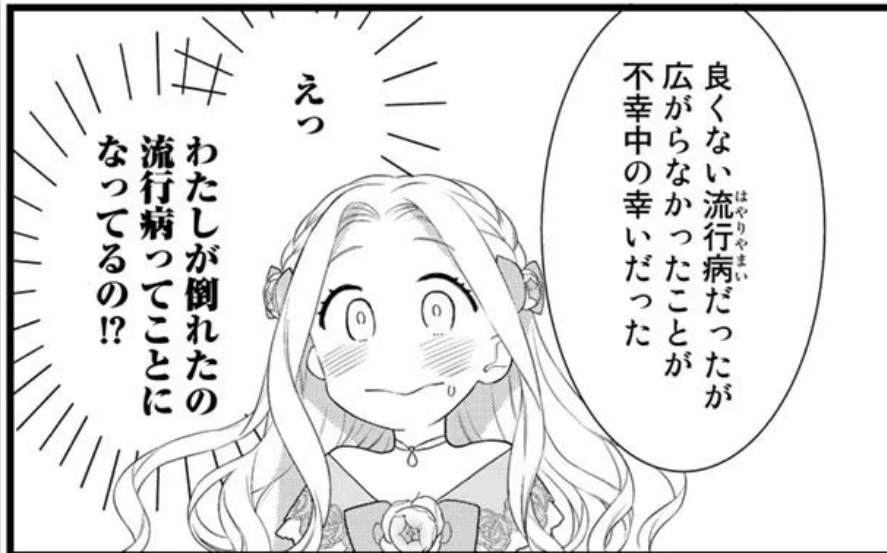
!

留学中はお世話に
なったからね
色々気にしていたんだ

しかし
リンハルト殿には
お気の毒なこと
だったようだね



そりや側室に
毒盛られたとか
醜聞だもんね…



良くない流行病^{はやりやまい}だったが
広がらなかったことが
不幸中の幸いだった

えっ

わたしが倒れたの
流行病^{はやりやまい}ってことに
なってるの!?



ポーカー
フェイスも
できませう

わ…わたしに駆け引きは
無理だよお…



バルナバッシュ殿下も
多分…事実を知っては
いるんだろう

知っていても
化かし合ってるわけで…

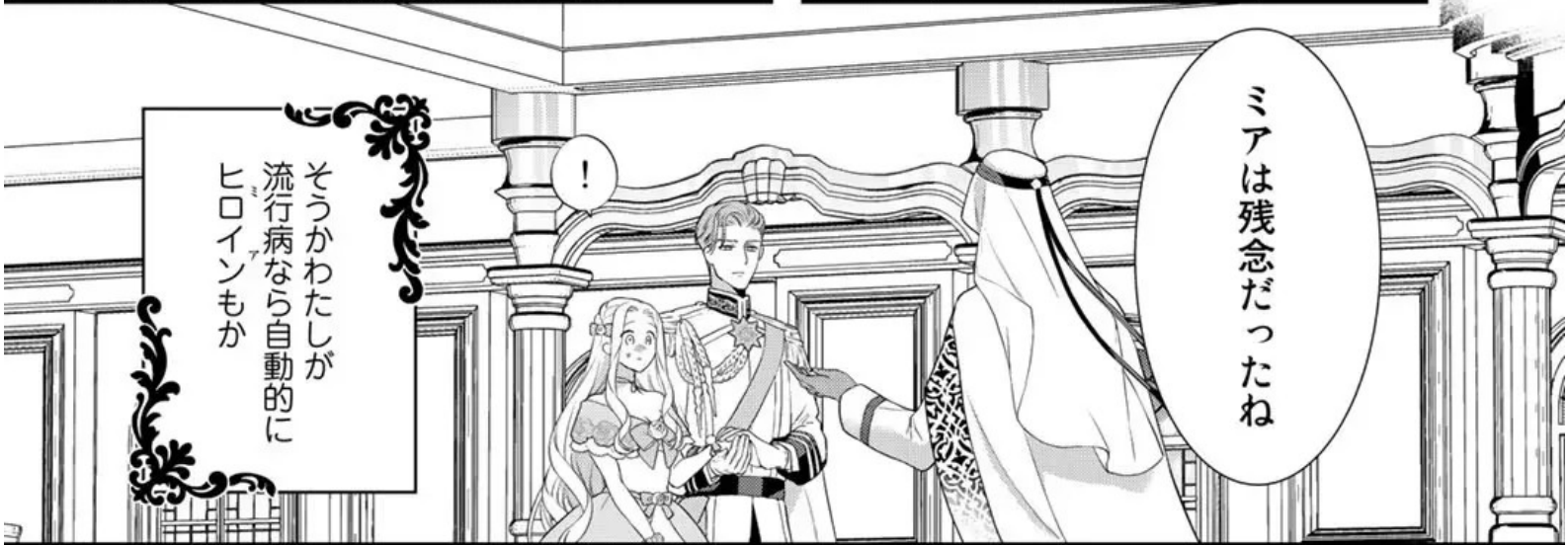


お見舞いに来た人たちは
全くそれっぽいことを
言わなかったけど…

流行病は表向きで
事件のことは噂で
皆知ってるんだ…



って
さっきから…





少し意外だったけど
ご成婚された後は
仲良くされていたんだね

妃として娶ったのだ
当たり前だろう

確かに……しかし



アンネリーエ様は
私の留学中とは
まるで……

別人のような雰囲気
をしていらつしやるね



も……もしかして
疑われて……

気のせいであろうよ



今は病み上がりで
気弱になっているのも
あるだろう



そうか…
アンネリーエ様とも
落ち着いてゆつくり
お話がしたいね

是非帰る前に
お茶にでも招いては
もらえないかな



そうであろう？
アンネリーエ

はい！



それは残念

ではせめて今宵は一曲
ダンスをお付き合い
いただけないだろうか？

！



えっと…

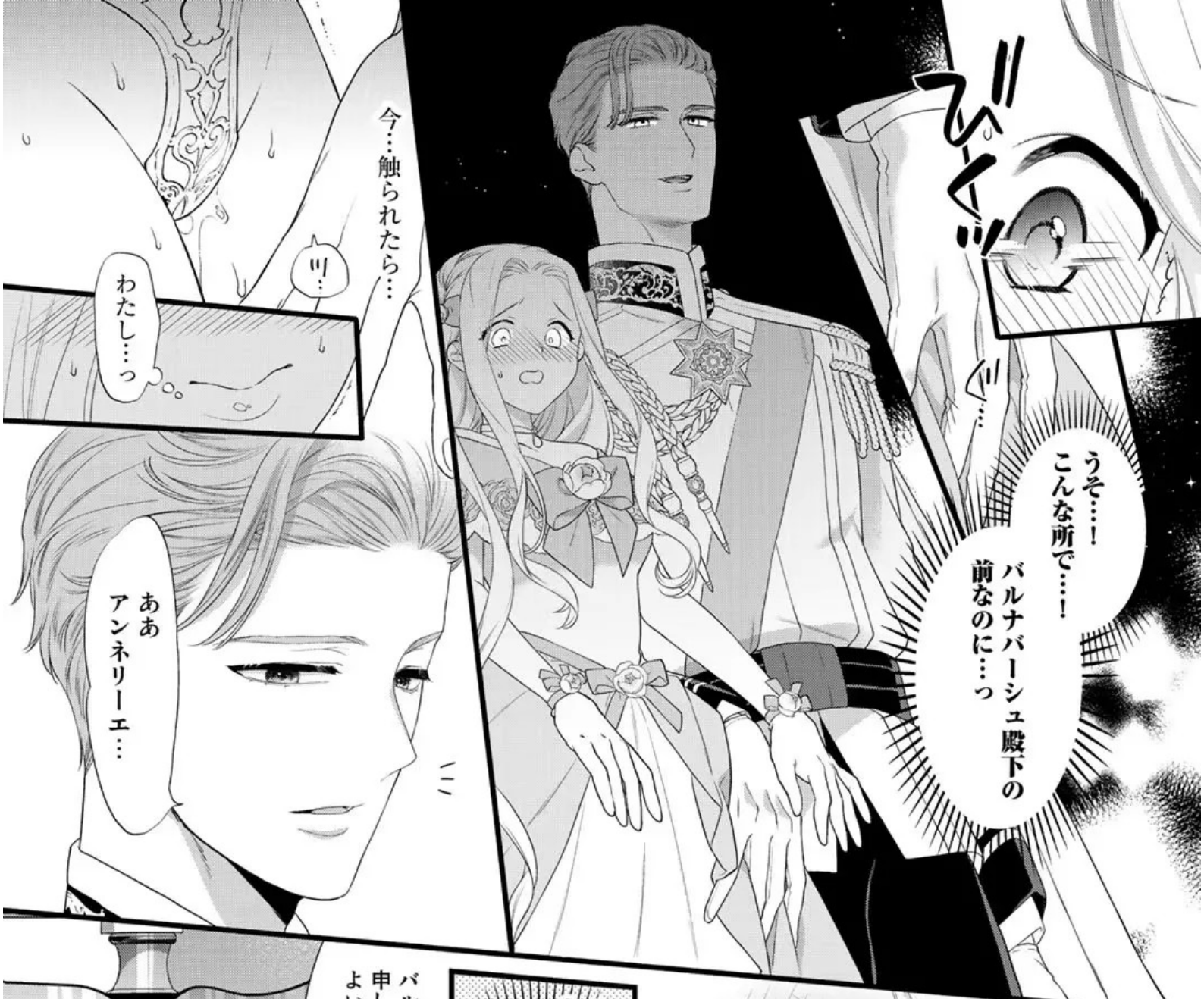
バルナバーシュ殿
アンネリーエはまだ完全には
回復していないのだ

茶会を開くにも段取りを
つけねばならぬので
そこまでできぬかもしれぬ



それが一番
無理ですうううっ

こんなモノ持って
ゴンスなんて
どきませ〜ん！



今…触られたら…

わたし…っ

川！

うそ…！
こんな所で…！

バルナバーシュ殿下の
前なのに…っ

ああ
アンネリーエ…



だっ
誰のせい
ですか…！

バルナバーシュ殿
申し訳ないがまたの機会で
よいだろうか？

もう疲れたのでは
ないか…？

顔色が悪い

はっ

はっ…

アンネリーエを
休ませたいのだ





おっ——…

あれっこれって
もしかして

ではどうぞあなたに
わからせてやれば
よいかな？

今から
お仕置きですか——!?





詰める 2

元悪役令嬢は
D S 王子様から
逃げ出したい

第 7 話





そなたを
自由に歩けるように
しておいたら

ほら……
言った通りであろう？

今頃は
バルナバーシュに
捕まっていた

確かに……

は……
は……



絶対
ボロが

でます
はい



ゲームではバルナバッシュ殿下は
ミアに執着してたから...そのことを
聞かれたりなんかしたら...



あのまま二人きりになって、
色々質問されたとしても
何も答えられないし...



そなたは迂闊だから
信用できぬ

ず
ば



でも

言ってくれば...
直操帯
こんな
なくても

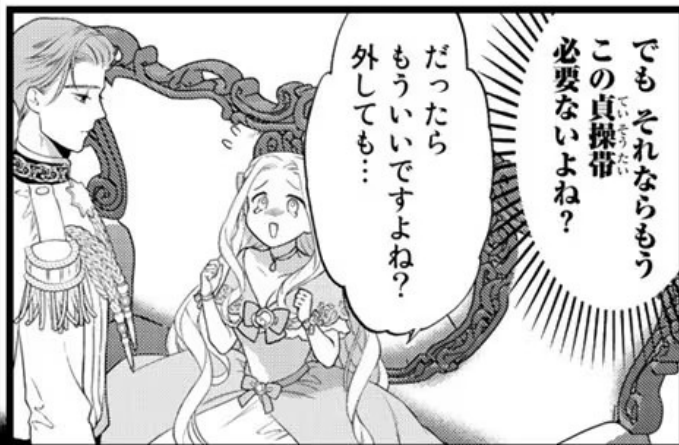
離れなかったのに...



リンハルト様が
狡猾なだけな気が...

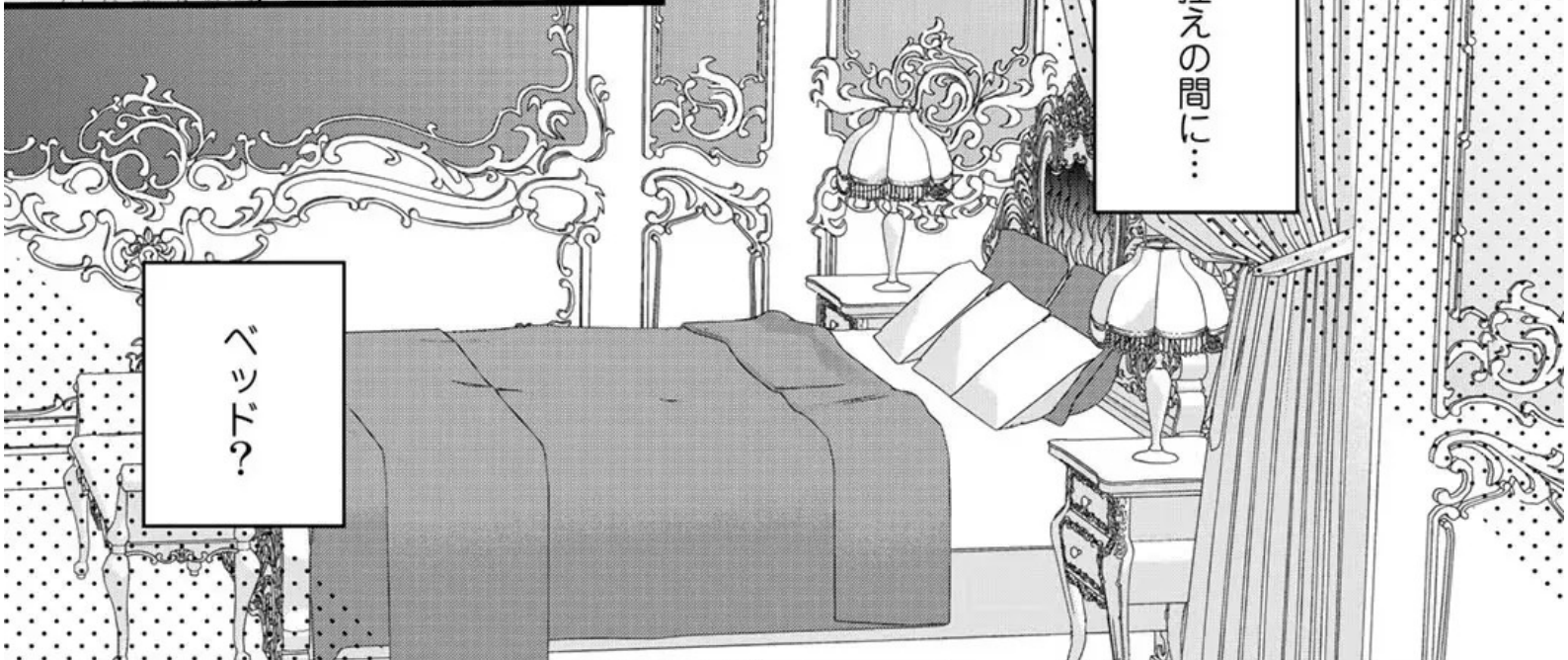
くぬぬ
不確定
ない...

うかつ





ふむよかろう



控えの間に…

…ツミツミ



ドレスをたくし
上げなさい

では

逢引き
用ってやつ…

…具合が悪くなった人が
横になれるように…
と思いたいけど
これってやつぱり
アレですか…

あやう









よく見せなさい

や……
かあああ



ああ：張り型を
咥え込んでいたから

そなたのいやらしい穴は
どちらもぱっくり
口を開けているな

くぱあ♡

二本とも
抜けてしまったては
――

物足りないのではないか……？

そんな……こと……

意地を張るな

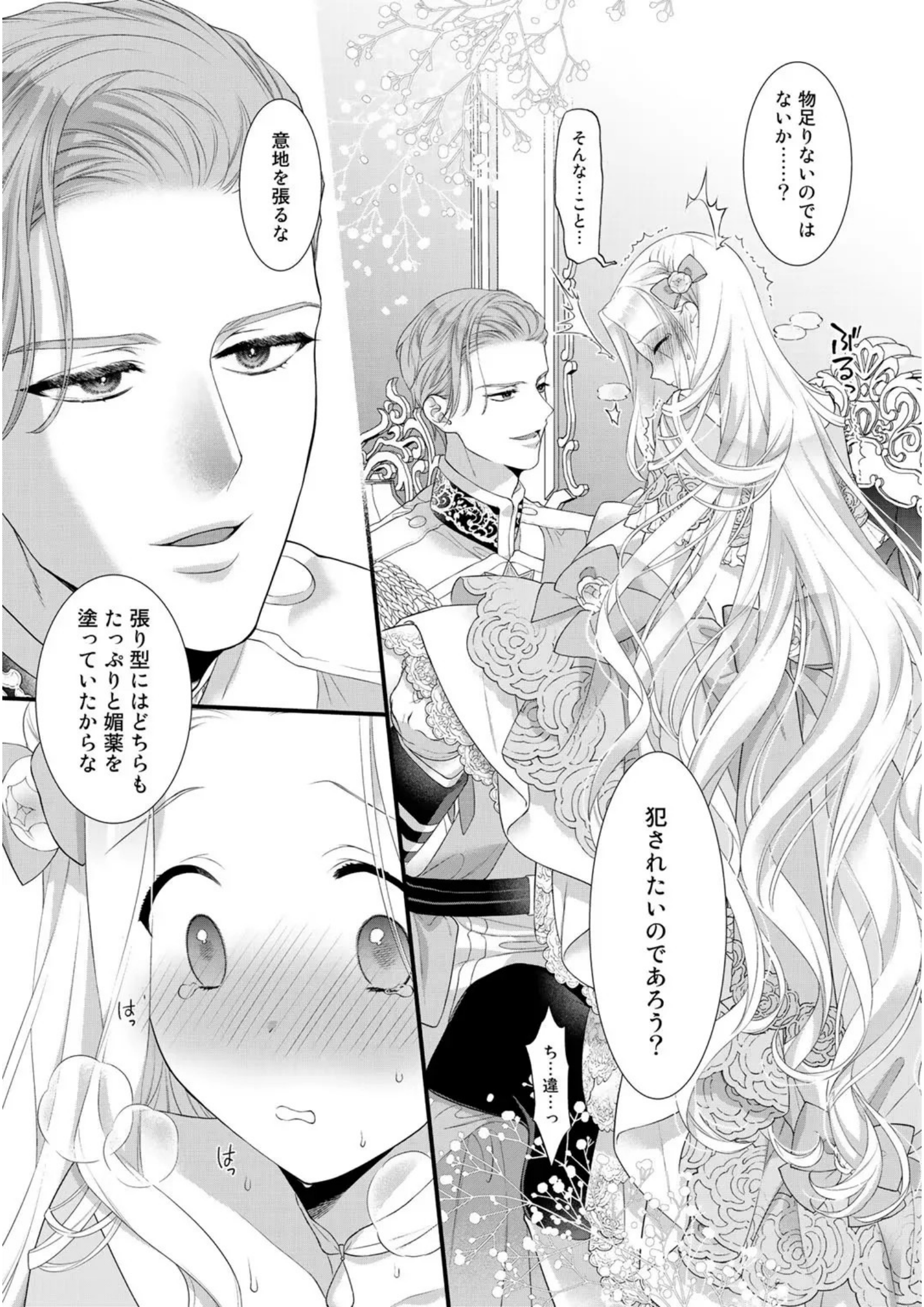
張り型にはどちらも
たっぷりと媚薬を
塗っていたからな

犯されたいのであろう？

ち……達……っ

はっ

はっ





媚薬は
やめてって…

ニロったの
ジーン

そなたは媚薬を
嫌がるが

まだ尻は私を
受け入れられるように
なったばかりだからな

くっ…♡

媚薬は使ったほうが
辛くないぞ？



それはお尻を
使わなければ
いいんですってば！

くっ…♡



このままそなたを
部屋に帰しても良い…

私は夜会に
戻らねばならぬ故
あまり時間はないが

どちらか
片方の穴ならば

ここで犯してやっても
良い

わたし…今

思っちゃった…

選りなき

—あ…

片方だけだ

片方だけだなんて…って





ぐっ
キヤッ

早く言わねば
この部屋には鍵を
かけていないから

誰か入ってくるかも
しれぬぞ?

いっ
お……

扉を開けたら
そなたの穴が
丸見えだな

……見られたくて
黙っているのか?

ち
ぢが

えっ!?

ト
サ

ならば選りなさい

雌穴か?

尻穴か?

どちらを
犯されたいのだ?

どっちって……そんな……

—ま…
前の穴を…

ちゃんと言いなさい

……め

めすあなを…

おかして

ください……

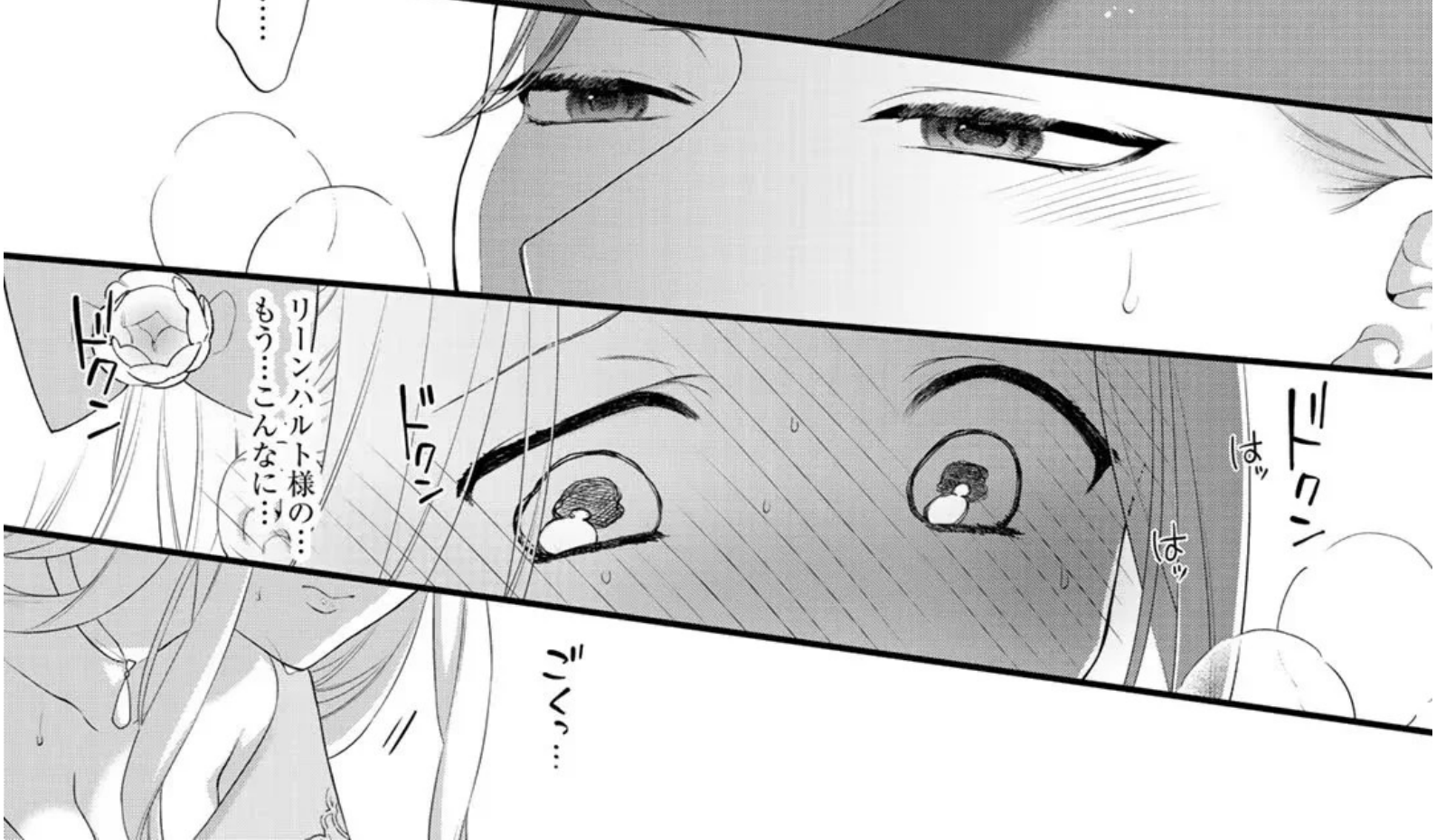
よろしい
よく言えた





そのまま
腰を下ろしなさい

あ……



リンハルト様の……
もう……こんなに……

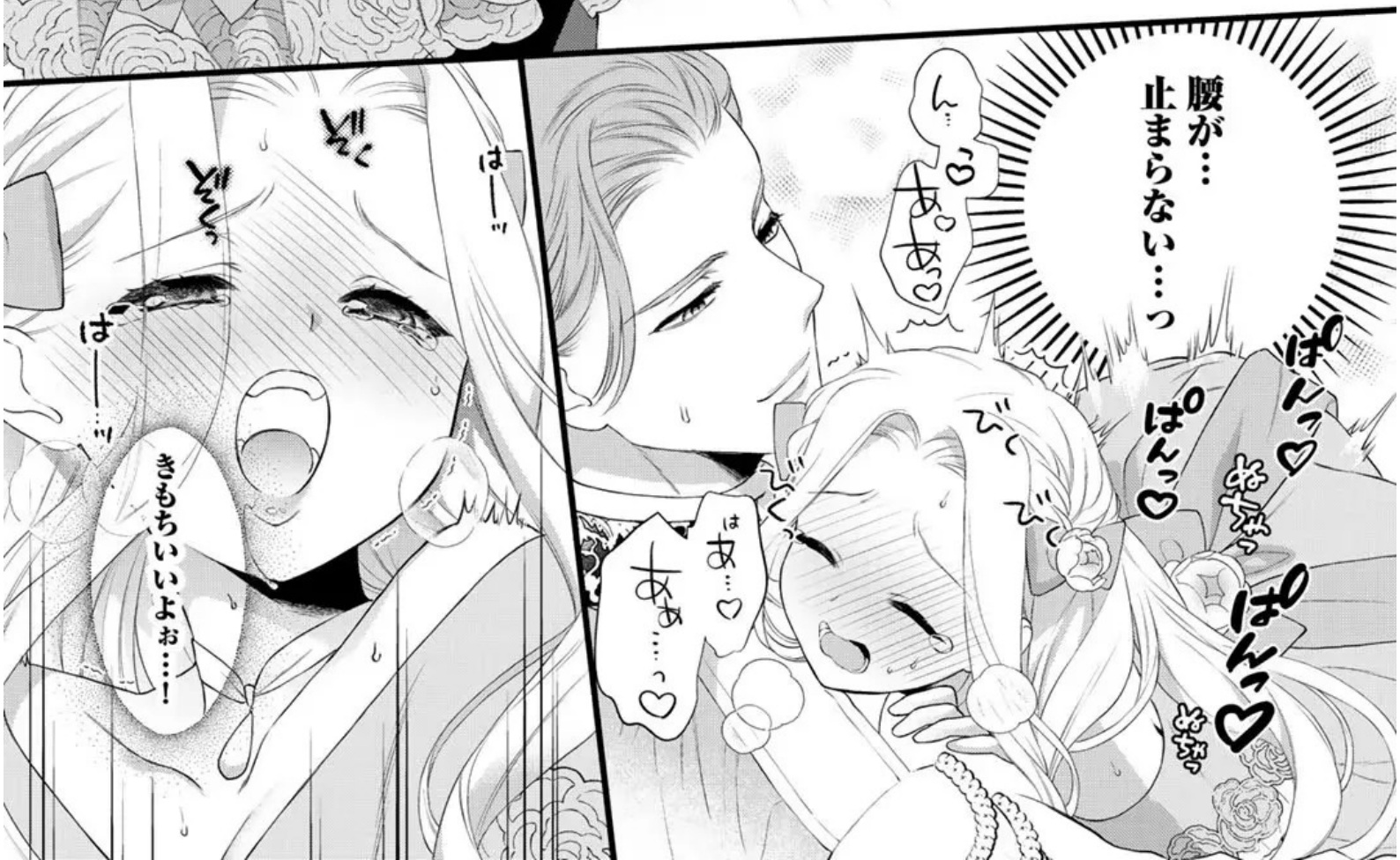
……



熱くて...

擦れて気持ちいい...

そんなに悦い
か
アンナ



ああ
よがるそなたの
中はたまらぬ…

……絞り取りにくる

ハッ



そなたは誰にも
渡さぬぞ...

アンナ...



そなたはここに
いなさい

え?

わたしも...

夜会に戻る



はち...

起きたか
アンナ







詰める 2

元悪役令嬢は
ドS王子様から
逃げ出したい

第 8 話





自分でしては
ならぬ……

ドレスを脱いで
犯されたい格好で
待っていなさい……



……って
言われたけど……



媚薬の
せいで……

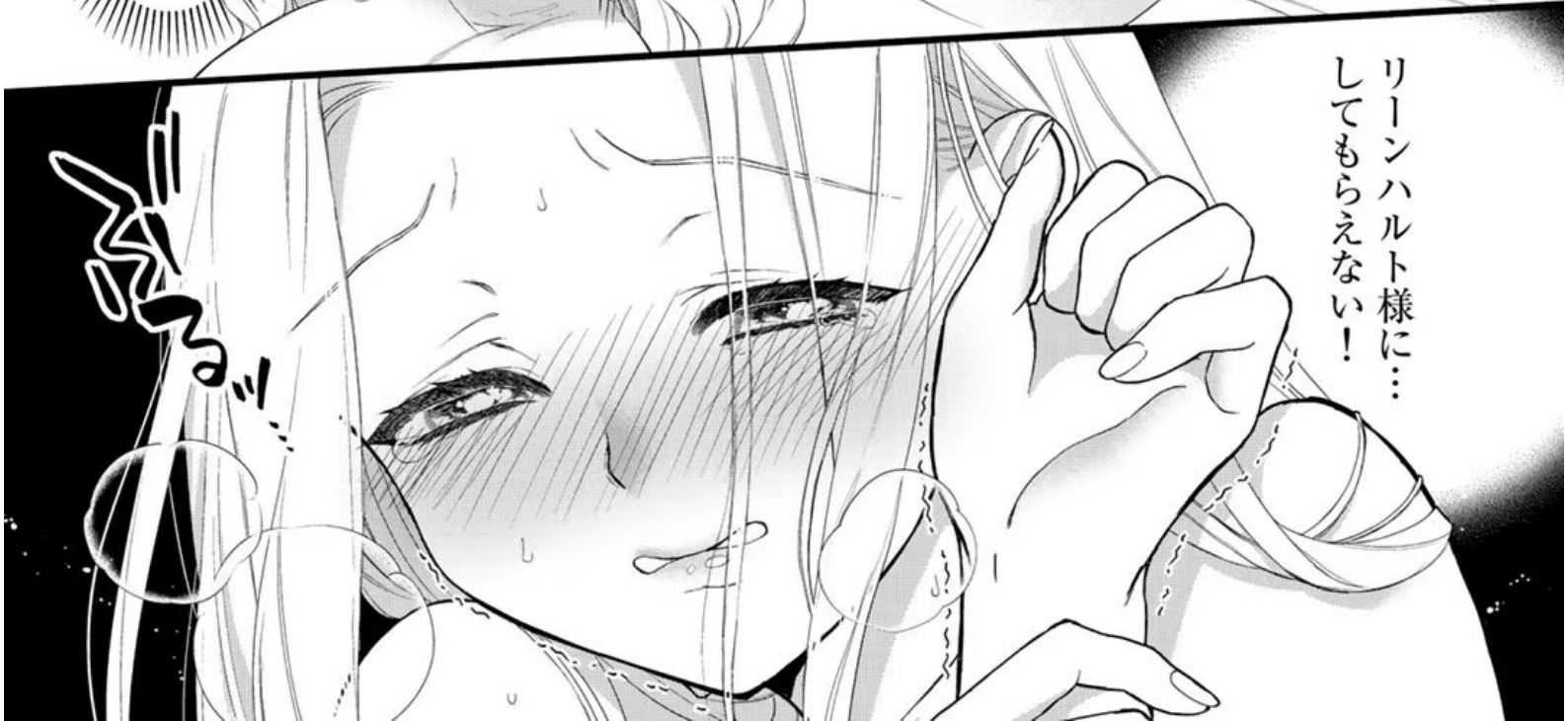
まだお尻も
アソコもむず痒い……



どうしよう……



ドレス……
脱がなきゃ……



リンハルト様に...
してもらえない!

犯されたい格好って…

フリフリ

リンハルト殿

おられるか？

バツ
バルナバーシュ殿下!?

へん



はっ

アンネリーエ様に
会いたいのだが

すぽぽん!

中にいるのか?

む?
開かぬな

ガクガク

どうどうして...!?



た...

はッ

はッ

ガクッ

か...隠れなきや...!

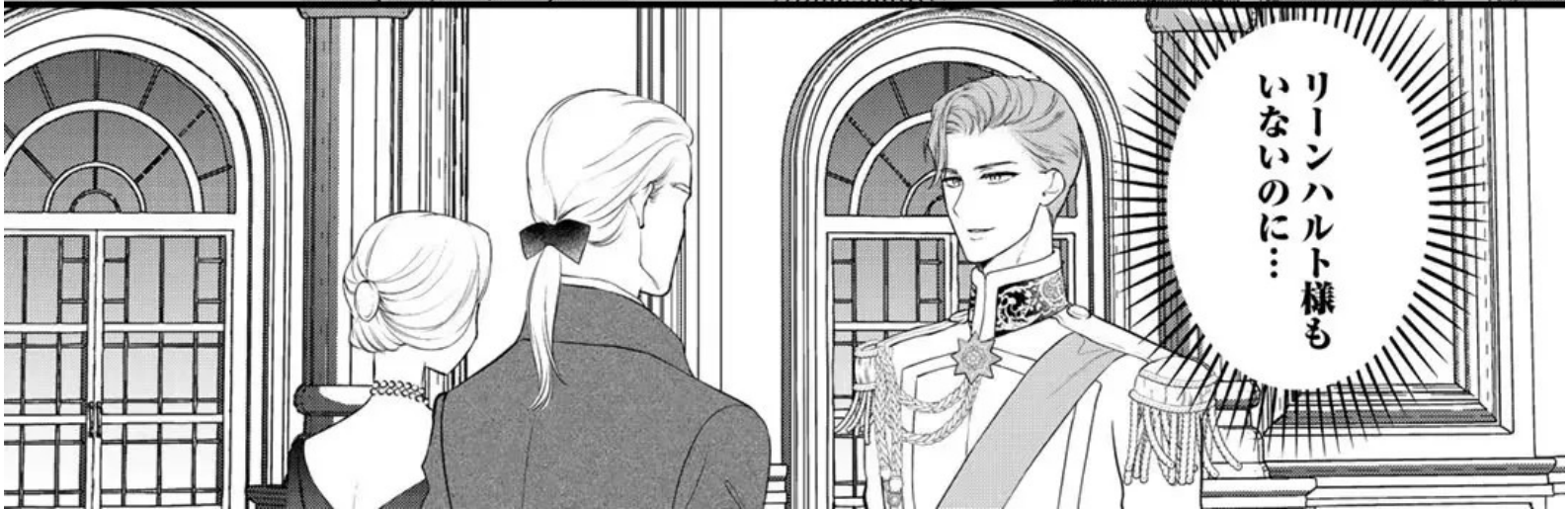


ガクッ

ガクッ

立てない!!

っ!



リンハルト様も
いないのに...



彼の国は

アラビアンな感じの
後宮があつて

ゲーム内の
昔話で

王族がお姫様を
後宮に攫った
話があつたけど

まさか…
彼も…!?

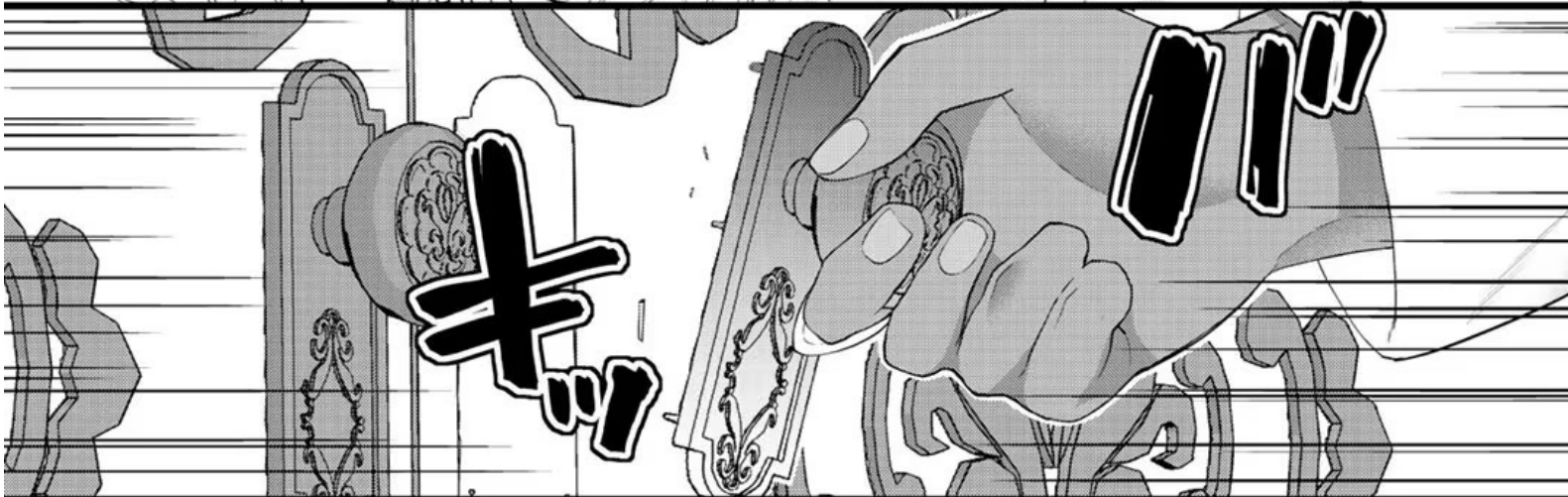


あの…
ハレンチな
衣装が…!!

ドーム内で
一番エモかった
話題になった…
おちち



しかも…
バルナバーシユ殿下の
ルートは…



キッ



嘘ーッ!!
壊した!?

この国の扉は

おや…
相変わらず
やわいな

攫われて…!!

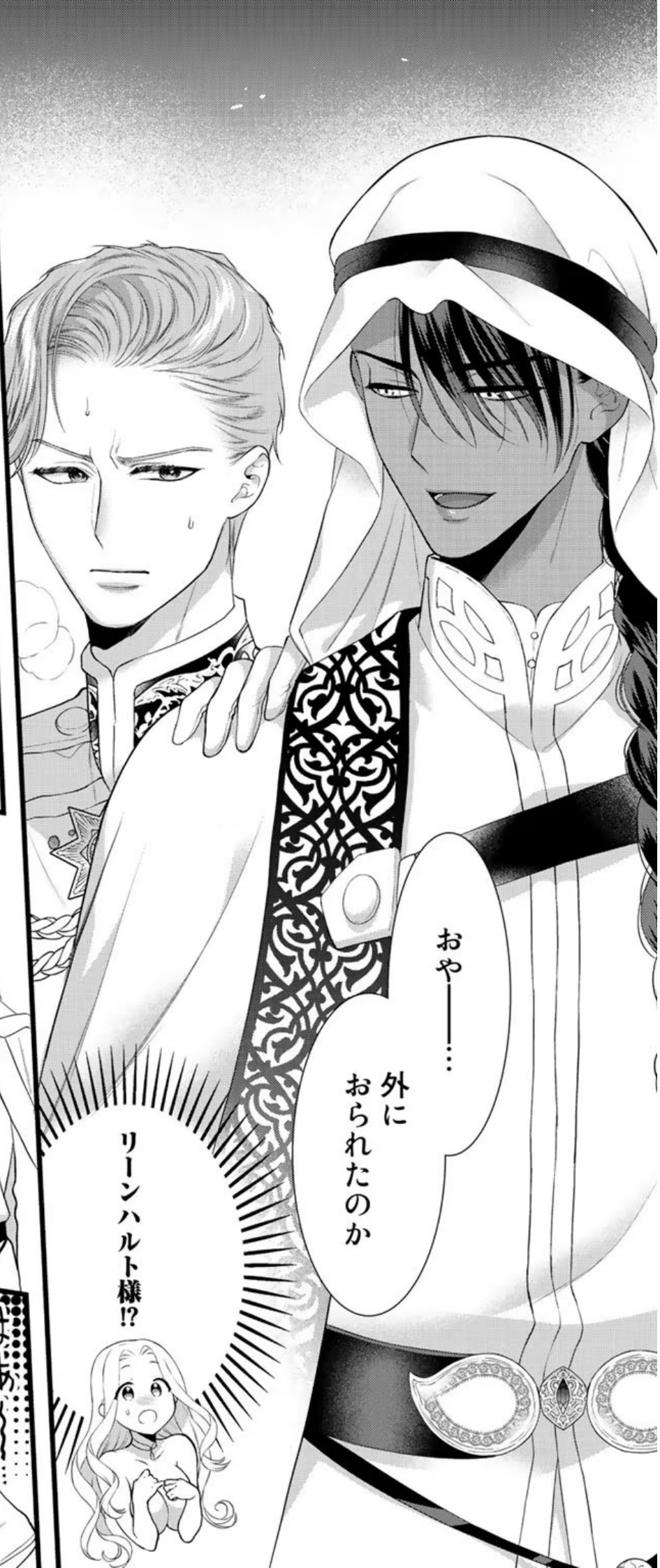
さっ

まあいいか

ギイ…

えっちな
衣装……!!?

ガッ





昔から力加減を
考えよと幾度も
言ったであろう



また壊しおって…

ははっ
すまん



懐かしいな
…

この国に留学中は
とても楽しかった…



あの頃は
ミアもいて
…



外交の話で
盛り上がったものだ

リーンハルト殿



アンネリーエ様
とも…

どきっ



アンネリーエ様は
一体どうしたんだ？

まるで別人のような
雰囲気ではないか



やっぱり
バレてるうう



もう一度お話しして
みたかったんだが――

アンネリーエは
部屋に戻った



人が違って見えるのは
病^{やまい}の後遺症であろう

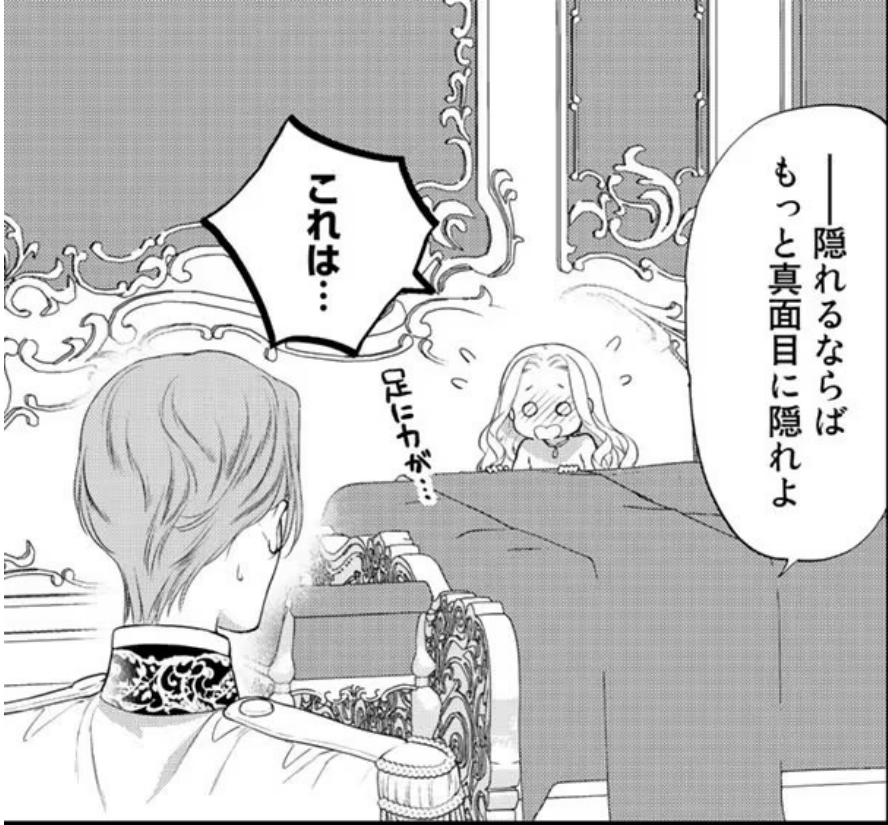


ではそういうことに
しておこうか

本人がいないと
確認できんな

か…帰った…？

へ+
へ+





ひあ…っ

ぐわ

いやっ

あッ

こんな…
ドア越しで



廊下のすぐ
横なのに！



あれ…？
鍵…

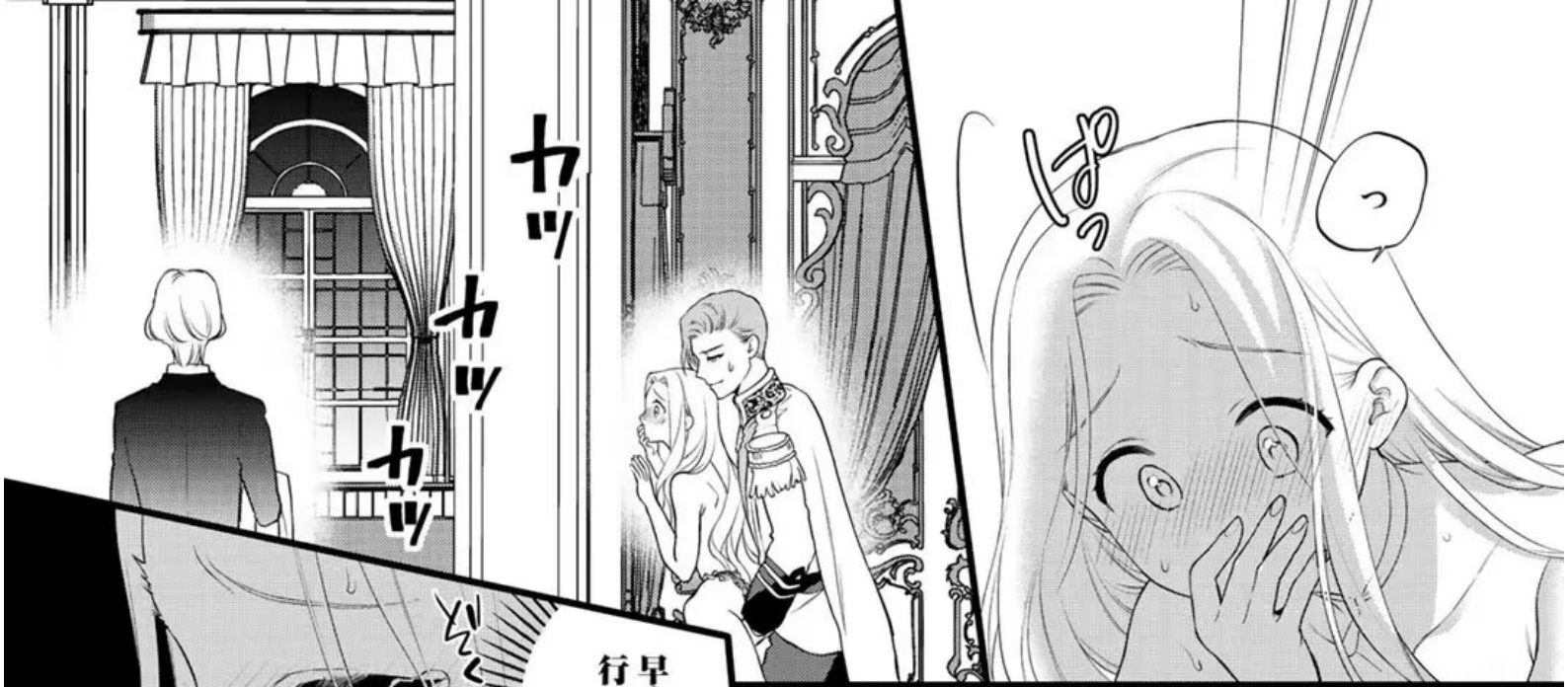
…先程
あやつが
壊したからな

かつ鍵…っ



私に掴まって
いなさい

待…



早く
行って...

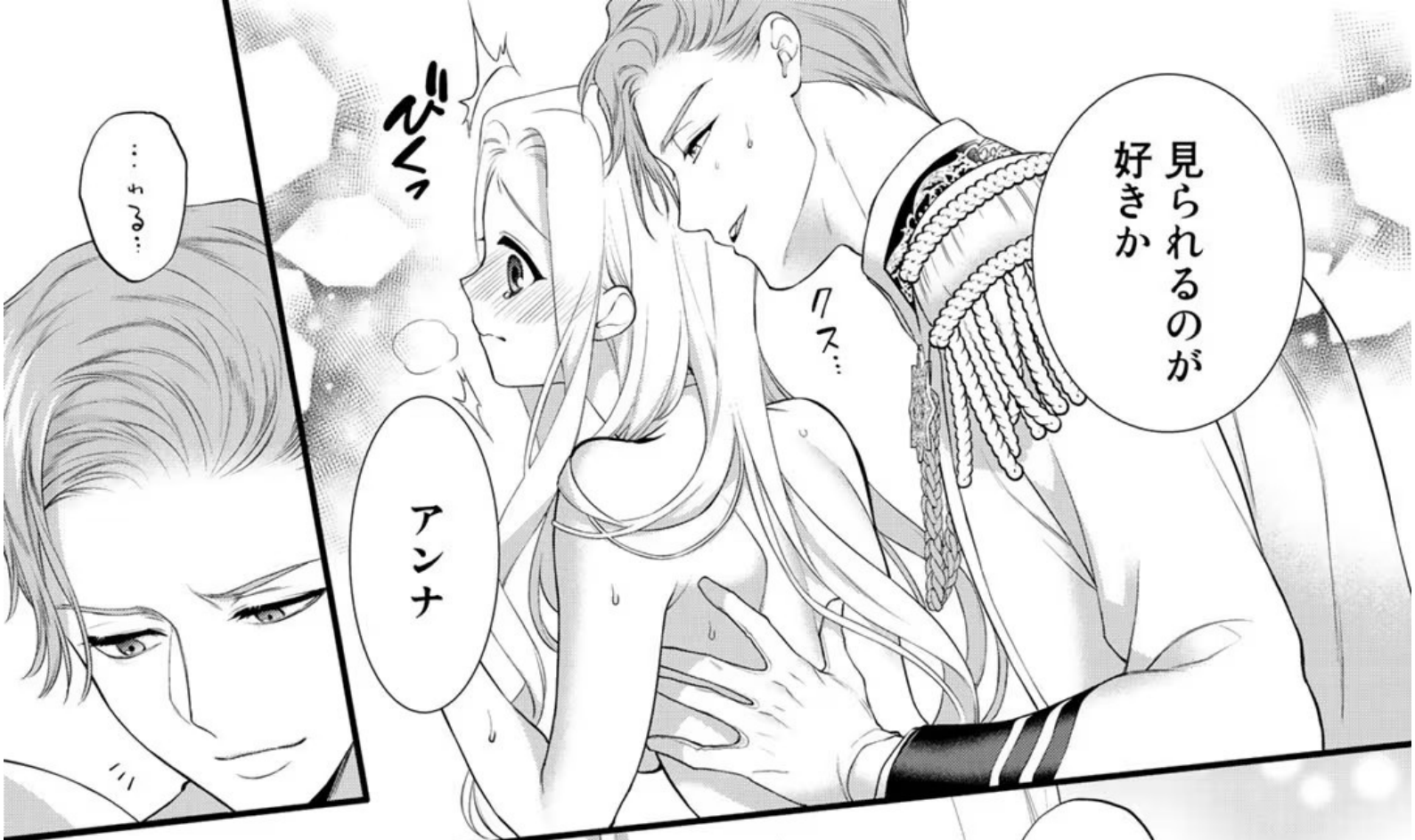
早く
行って...

!!

行ったか

全く...

このように
締めつけおって...



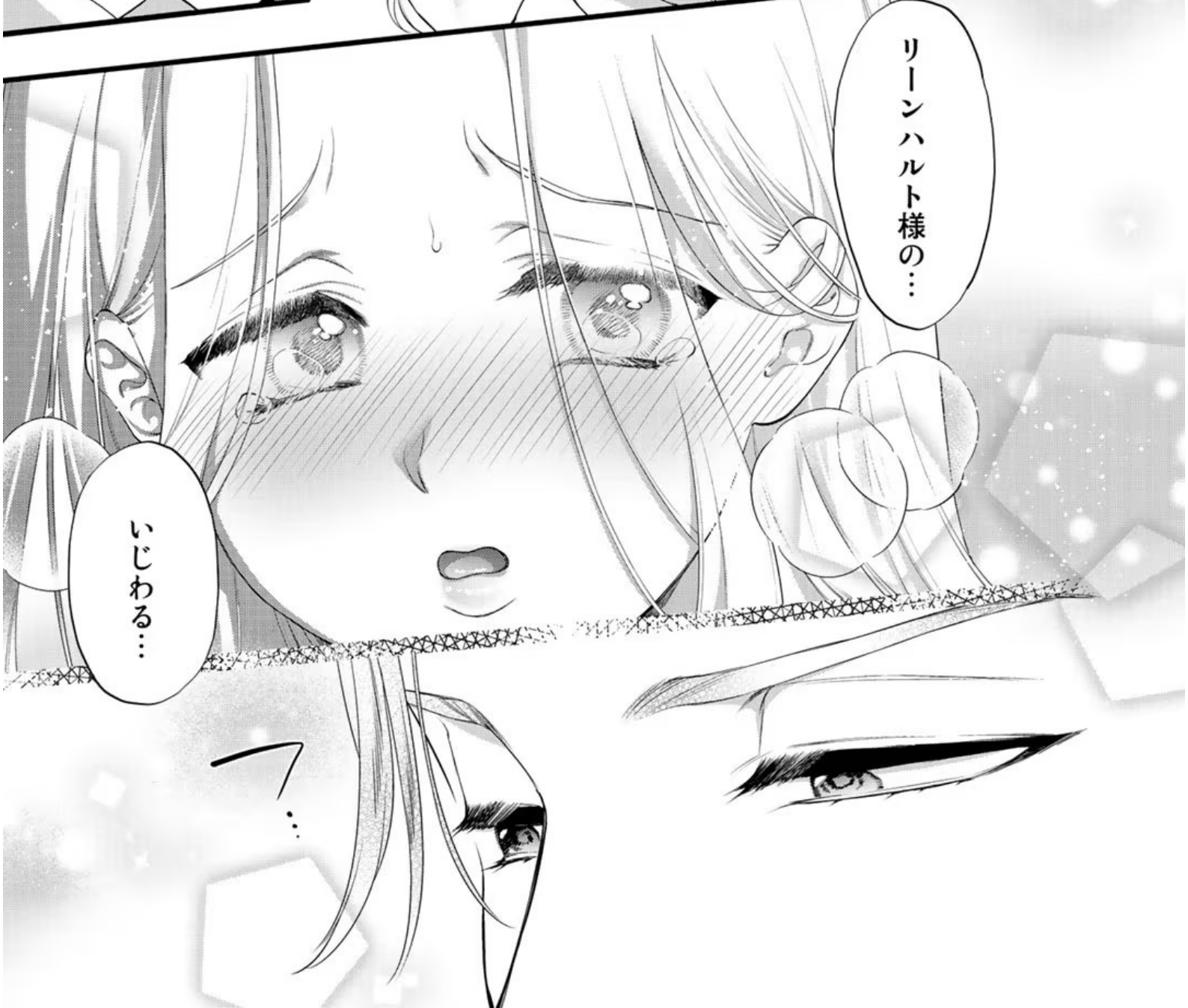
見られるのが
好きか

クス...

びくっ

アンナ

...ふふ...



リーンハルト様の...

いじわる...

部屋に戻るぞ

では待っている間
どのような格好で
いたのか

見せてみなさい

え!?

う……

あの……

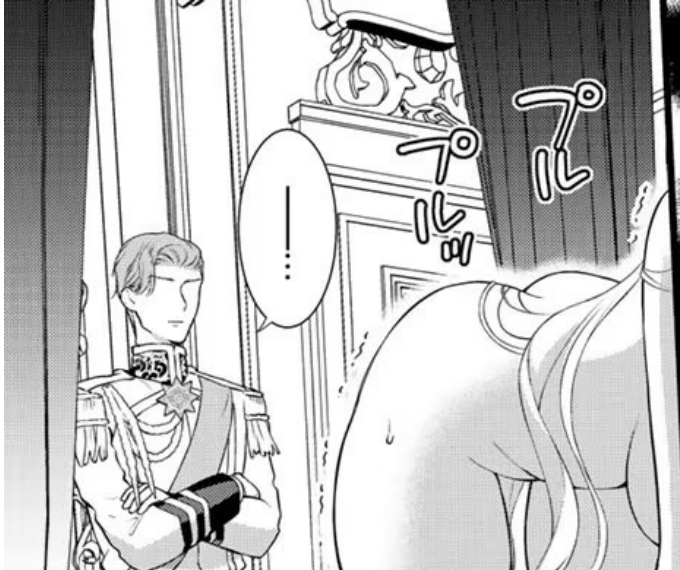
だう
だう……

えと……

しなきゃ……
ダメですか?

ダメだ

ギミ……



...

プル
プル



は...

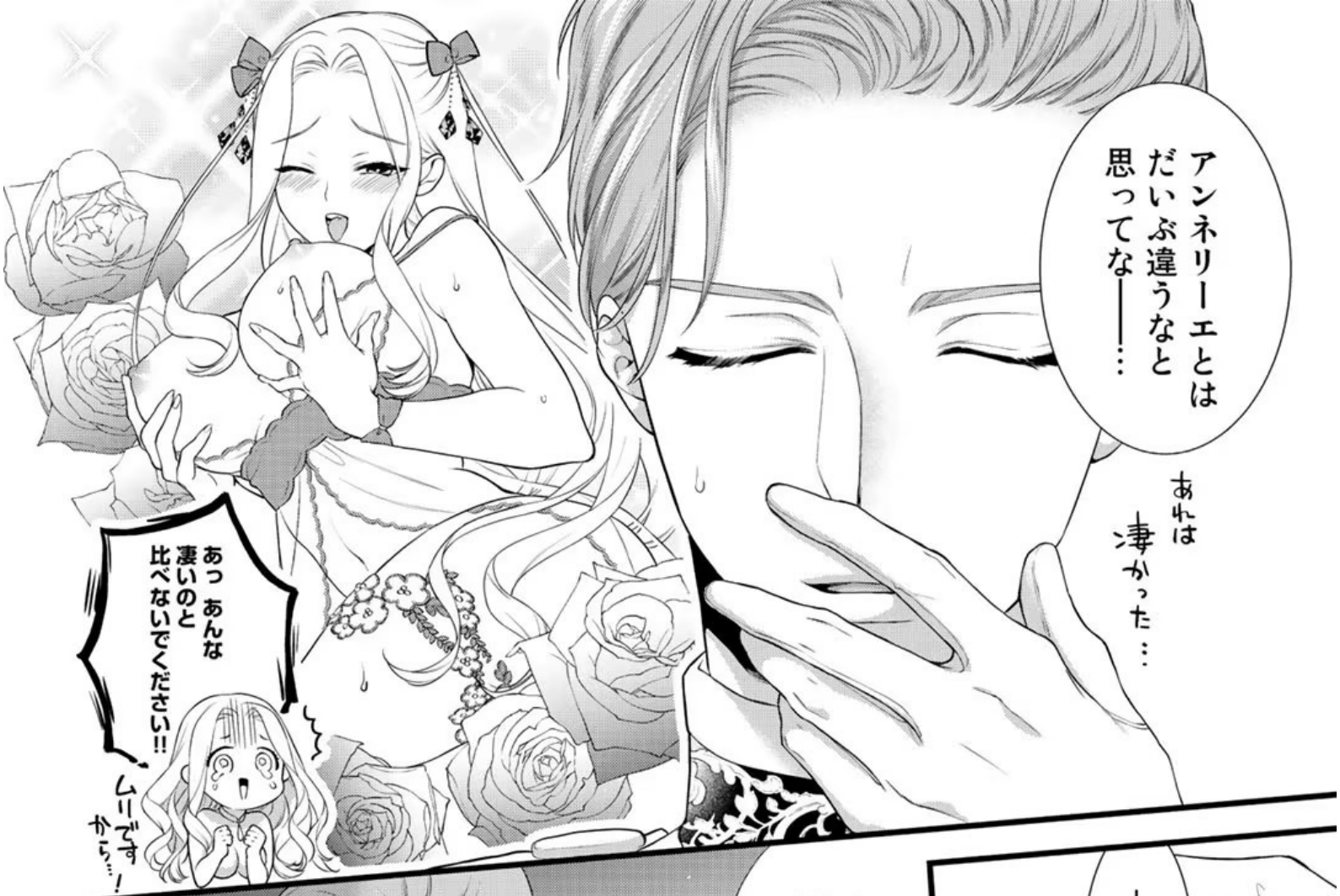


わっ
笑いました!?

いや
すまぬ



こうして...
待ってました...



アンネリーエとは
だいぶ違うなと
思ってたな……

あれは
毒かった……

あっ あんな
凄いのと
比べないでください!!

フリーです
から……!



そなたなりに
頑張った褒美をやろう

——そうだな

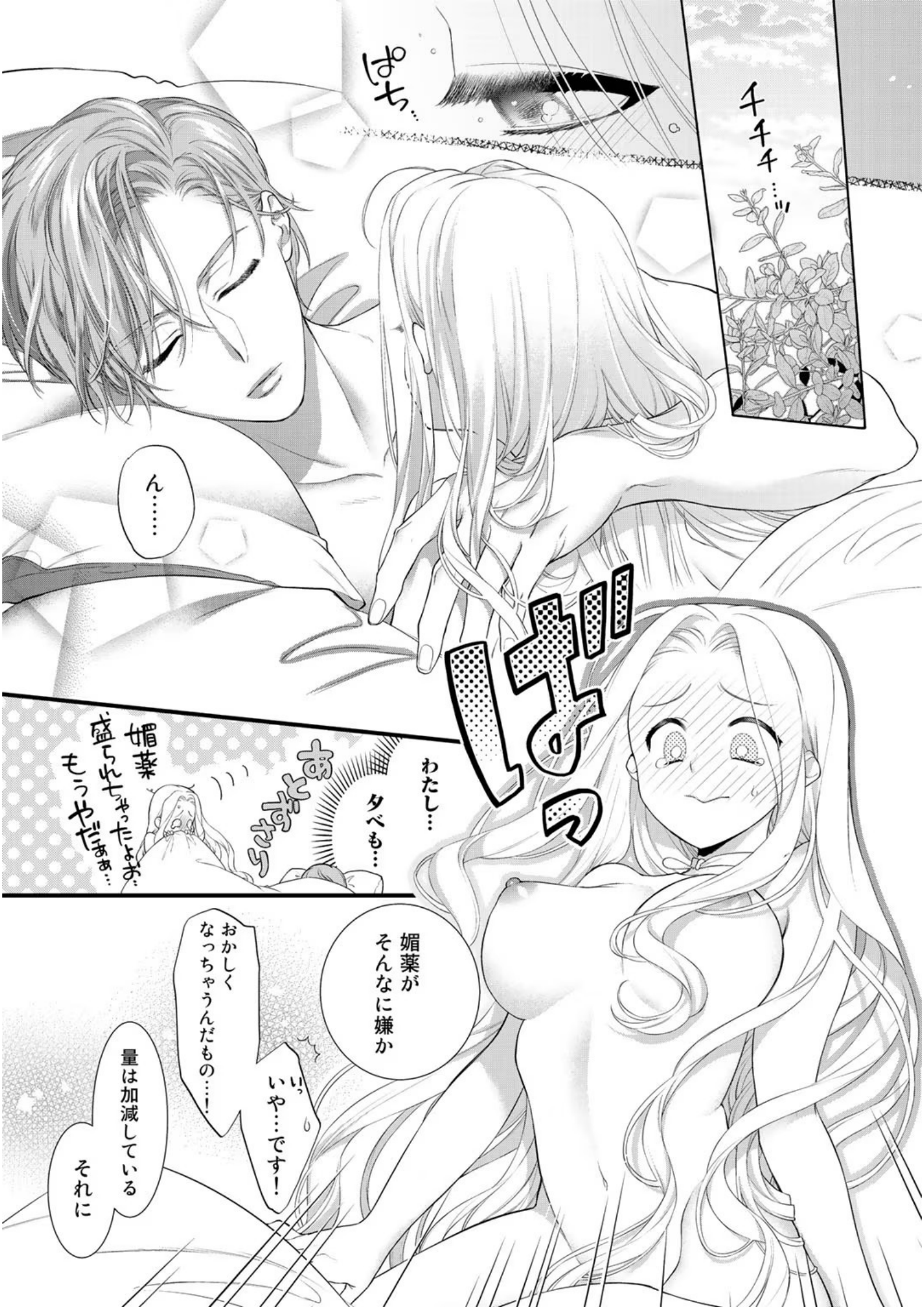
では

えっ

先程は
こちらだったが







はち...

444...

ん...

げっ!!

媚薬 盛っちゃったよ! もうやだ...

わたし...

タベも...

媚薬が そんなに嫌か

おかしく なっちゃうんだもの...!

いや...です!

量は加減している

それに



おかしくなった
そなたは

素直で
可愛いのだがな



—
……



そなたは
淫乱のくせに

恥ずかしがりで

頭が固い

……っ！



スリ...

——…拗^すねるな

そんな目で見られると
また媚薬を使って
犯したくなる



——…まったく

そなたは
私を煽るのが
上手だな

それ…どんな目…!?

とりあえず媚薬は
やめよう下さ…

!



—…褒められて
嬉しいと思っちゃうのは…
たぶん間違ってる…

—でも…

こんな気持ち
がこみ上げてくる
のは—…

わたし…もう完全に
調教されちゃった
の…？

それは違うな

ア…ッ

そなたの調教が
終わったという
ことはない

体はもともと淫乱だが

それ以上に
魂の素質が高い

そなたはまだ
伸び代がある

な…
何を言って…

もっと厳しく
躡けることも
考えたが

そなたは不思議と
甘やかしたくなる

ツツ…

ふく

ふく



喜ぶがいい
アンナ

そなたはまだまだ
高みを目指すことが
できるであろう



またそなたは
そんな目をして…

犯されたいの
だな？

ち…ちが…！

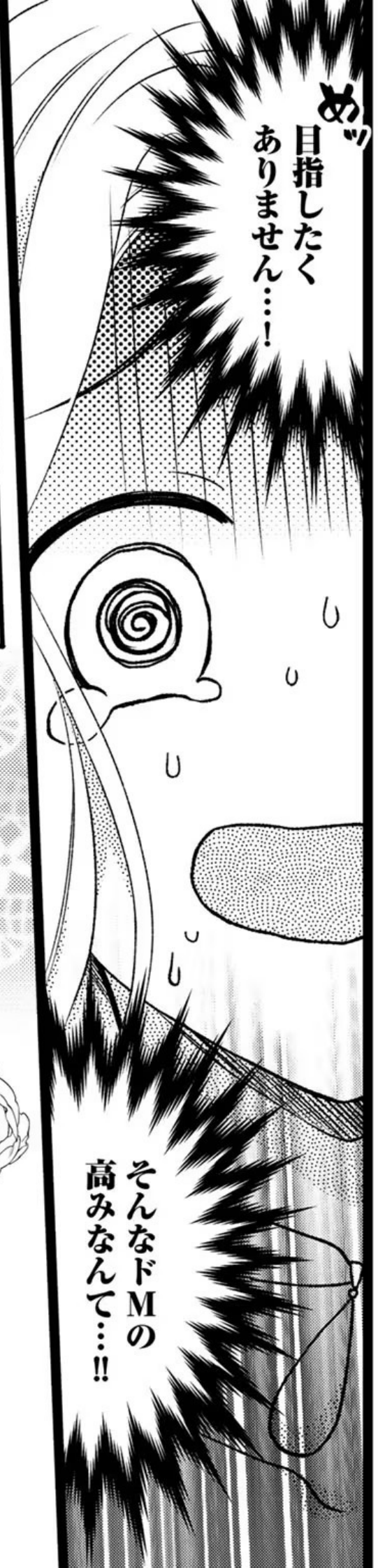


よろしい
脚を開きなさい

あゝ

リンハルト様…!!
泣いたり
絶望したりした目は

欲情してるのとは
違うんです…



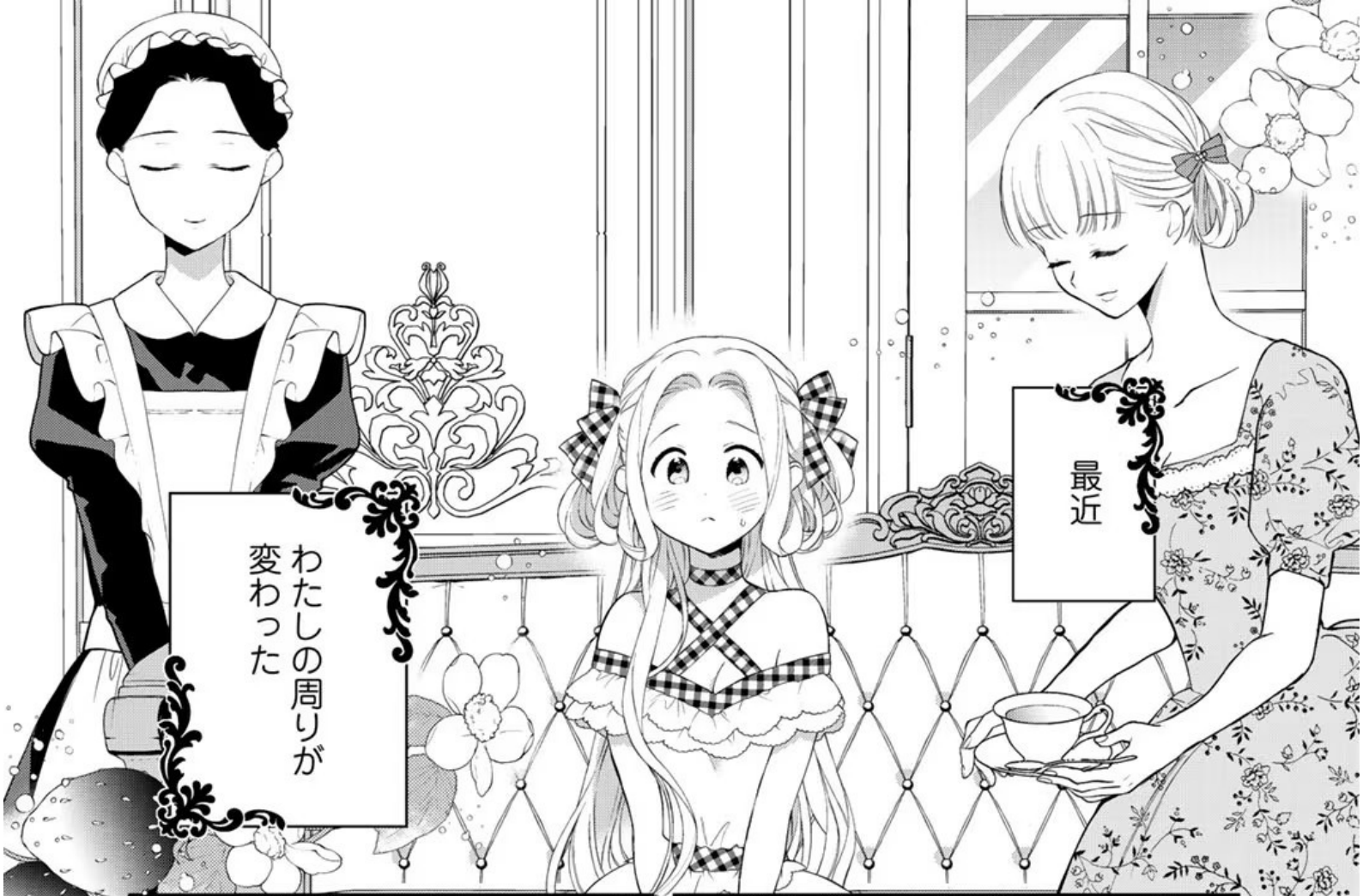
めッ
目指したく
ありません…!!

そんなドMの
高みなんて…!!



第 9 話





わたしの周りが
変わった

最近



いつの間にか半分以上
女性になっていた



目覚めた当初
護衛は全員男性
だったのに



そしてわたしは目下
お妃修業中、
なのだけど……

歴史と地理の
先生は



おじいちゃん

文学と詩歌の
先生は



おばあちゃん

マナーの
先生も



中年の女性



おじいちゃんと

女性ばかり

御殿様も
おじいちゃん

王子様の妃に
間違いがあつたら
いけないから
なんだろうけど...

な...

なんかどんどん
リーンハルト様の警戒が
強くなっているような...

リンハルト様の
F Sの琴線に

わたしの素質が
気に入られなかったら...

こうはならなかった
はずで...

自分が
F Mだなんて

今でも
信じたくない
けど...



今の環境に
不満はないけど…

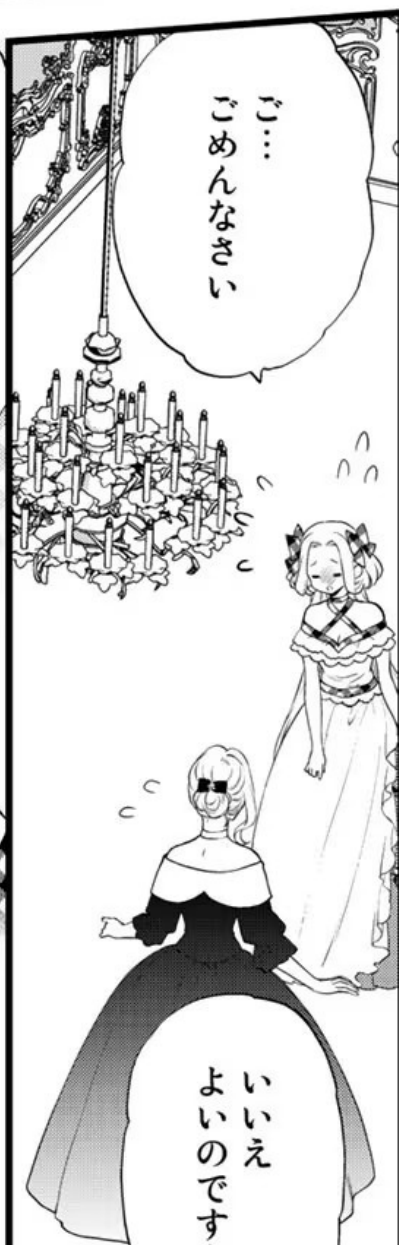
ただ…

……つとと



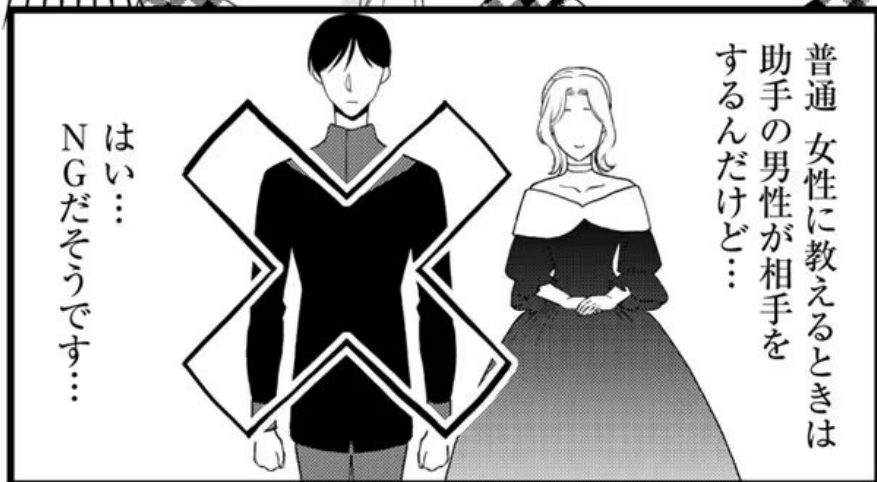
でも…
困りましたわね…

全然ダンスが
上達しない
のだ…!!



ご…
ごめんなさい

いいえ
よいのですよ



普通 女性に教えるときは
助手の男性が相手を
するんだけど…

はい…
NGだそうです…

そして……

駄目だ

男性役を女性が
やるのはやっぱり
無理があつて……

あの……

でも……っ

一人で練習しても
なかなか上手く
ならなくて……

……………



幼少から
鍛錬を重ねて
体を鍛え

学生の頃は
勉強にも勤しんで
いたはず

現在は王子様の
仕事をきっちり
やっている



そんな気は
してたけど...

リンハルト様は
DSだけど
真面目な人...



だから
リンハルト様と
昼間に顔を
合わせることは
めったにない



なので

おねがいをするのなら
夜の闇の時間……

／なんだけど……

おねがい……
おねがい……

おねがい……
おねがい……

おねがい……
おねがい……

おねがい……
おねがい……

教えた通りに
言わぬと

ずっと
このままだぞ？

わ……



わたしの…
お尻…に…

リンハルト様の
剣を…

お納め…ください…っ



上出来だ

アンナ

あ

しゅん…

!!



というわけで聞の前の
今がチャンス

ですから
練習相手が
いないのです！

これからも
踊らなくちゃ
いけない機会は
来ますし……

説
得

中……

この間の
夜会だって

バルナバーシュ殿下
と……

ほお……？

ゴ
ゴ
ゴ
ゴ……

失敗……

ピ
ク
ク



あ…

ぐ…っ

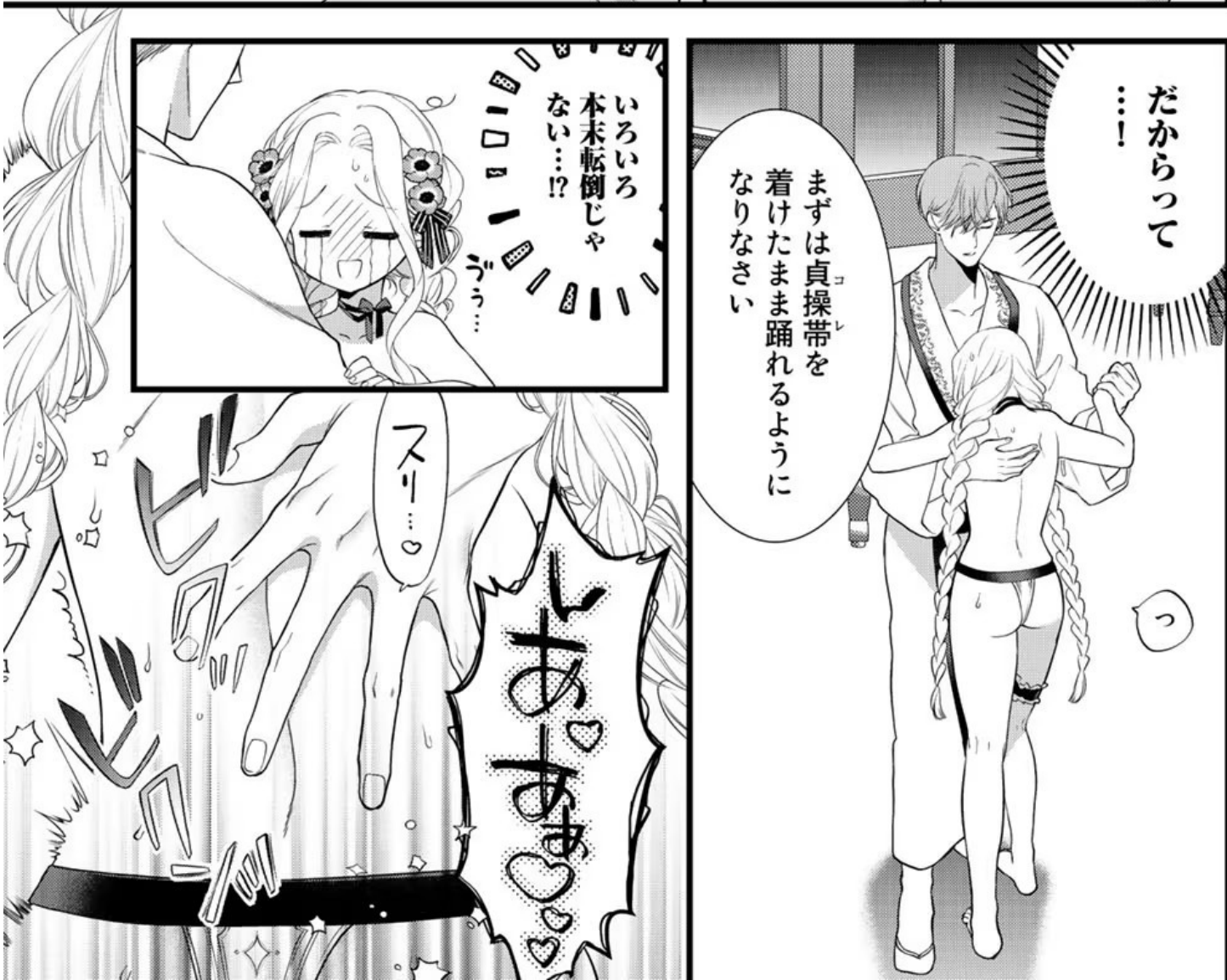
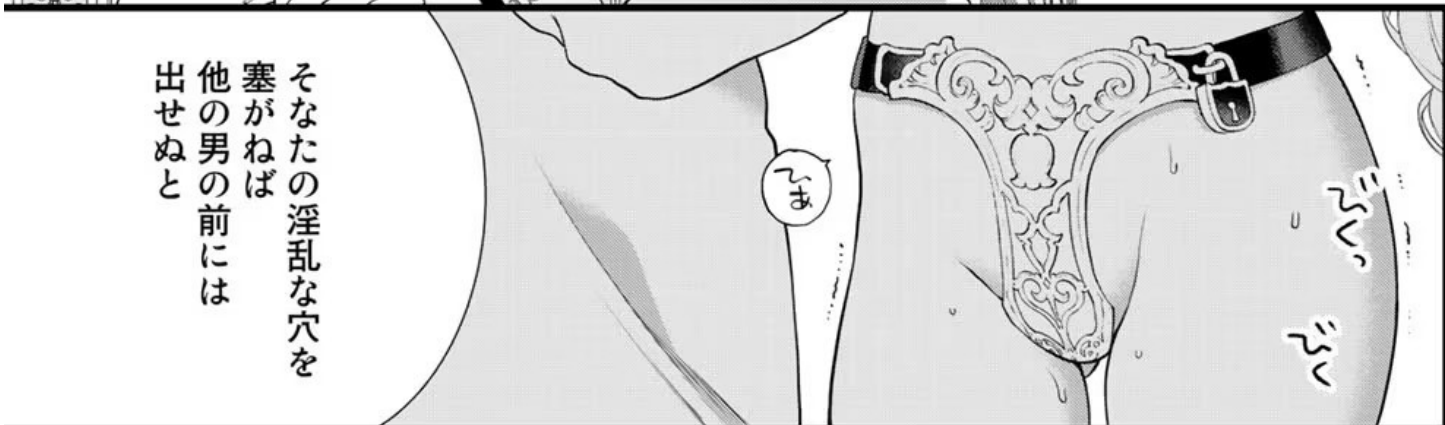
しっかり
立ちなさい
アンナ

ん…っ

は…

は…

そなたが
望んだこと
だぞ？





少し触れただけで
そのような声を
出して――…

そなた…本当に
我慢の効かぬ体だな

だっ…て…



その表情で
何を言っても
説得力が無いぞ

はい

どしどし



あっ

一番簡単な
ステップからだ



左

後ろ

前

右

繰り返して



今日は感じてても良い
だが足は動かしなさい

は…いっ

でも…
こんな…激しいなんて…

気持ち良すぎて…

気を失いそう…





トサッ

今日は
仕置きだな



おし…

おき…



久しぶりにそなたを
縛るとしようか…

それと

今日は媚薬を
多めに入れるぞ

や…!

カ
4
+

ならば媚薬を
使うまでだからな

そ…そんな…っ

仕方ないでは
ないか

ウス…

ダンスが上達する
まで続けるぞ

淫乱なそなたの
喜ぶことでは
仕置きにならぬ

わっ…
わたしが
壊れちゃいます…!!

わーん!!





リンハルト様…！

「ミアがアンネリーエに
毒を盛った」と聞いたときの
率直な思いは

『ミアもアンネリーエも
上手くやればいいものを』
であった

すぐに誰がしたことか
わかったのでは
底いようがない

アンネリーエも
そんなもので倒れるなど
警戒心が薄すぎる

こんなことで…

無理をして娶ったミアを
処分するのか…

アンネリーエとの婚姻は
失敗だったわけではない

失敗と言うのなら
ミアを愛妾に
迎えたことだろう

あの事件のときに
見捨てておけば
よかったのだろうか…

回復した？

アンネリーエが!?

はい
先ほど侍女のほうから…

……本人か？

は…？

あの毒で
生きているはず
なからう

アンネリーエの父
ヴュステマン——…
娘を王妃の地位に手が届くところに
ねじ込めたというのに死なれては

あがきもするか…

身代わりにそっくりな女でも
見つけてきたのであろう

本当に本人か
確かめに行く

アンネリーエ様!?

ハタハタ…



アンネリーエと
同じ顔をしているが

なんだこの胸の高鳴りは――…

離縁したがっている？

なんでも記憶が
無くなっている
ようでして…

まるで違う…

女は無理矢理
連れてこられたのか…？



暴くにはまだ
証拠が足らぬ

ならば……

利用してやろう

話は聞いた
死にかけたので
弱気にもなるうが

離縁など考えることはない
療養しているうちに
記憶も戻るだろう

あ……わたし

記憶はもう
戻らないのでは
ないかと……

どうして
そう思うのだ

……

……本当に
何も覚えて
いないのです……

このような状態では……

どうか……



どうか離縁を考えて
くださいませんか



この女は

この女は私のために
用意された女だ



記憶を思い出させるためと
言ってさせた
追体験の初夜は

案の定
再現などできなかった



手放す必要などない…

そう決めるのに
時間はかからなかった

手元に置くならば
私を騙せていないことを
知らしめねばならなかった

大きな秘密は
裏切りの温床になる

そなた
名は？

ア…アンナ…

どうやらヴュステマンも
この件には関与して
いないようだ

替え玉などではなく
体は元のアンネリーエの
ままであるらしい

しかしもうアンネリーエを
乗っ取ったアンナが
もしも魔物であったとしても
構いはすまい

それほどに――

……



よろしい

アンナを私に与えた者が
何者なのか

それが神であろうと
魔であろうと構いはせぬ

アンナが生涯
私のものであるならば







第 4.5 話

リーンハルト様と
お出かけ中...

え...!

そなたは
こういうものが
好きそうだな

これ...お花!?

かわいい...!

んっ

甘...!

リーンハルト様
これ...

お砂糖...

菓子...

むぐぐ

ほく

ぽいぽいぽい

んん?
んん!

わんこさげ状態









書き下ろし小説

扉を閉めて

うすいかつら



基本的に夜しか会えないリーンハルト様とお話をするなら、イロイロ始まってしまいう前でなくてはならない。なのでベッドの上でリーンハルト様がいらっしゃるのを正座して待ち、お部屋に入ってきたら、すかさず訊かなくてはいけない。

「あ、あの。明日にはバルナバーシュ殿下がお帰りになるんですよね？」

これを訊くべきか訊かざるべきか、本当に迷った。でも確認しておいた方がいいよね。明日、バルナバーシュ殿下は帰国の途につかれるそうだ。この情報は侍女さんの一人からもたらされた。そして疑問が一つ発生した。

出発に際してバルナバーシュ殿下はリーンハルト様のところに挨拶に来て、その後リーンハルト様はお見送りに出るらしい。その時にわたし、いなくていいの……？ ということだ。

「そうだが、それがどうした？」

でももう、失敗した予感がします！ リーンハルト様の笑顔が怖いんですけど!!

「わたしは、お見送りしなくていいのかなと」

「バルナバーシュを見送りたいということか？」

ベッドに静かに腰かけたリーンハルト様の手が、するつとわたしの首筋を撫でる。

「い、いいえできれば、しないで済めばいいなと思ひまして」

首を撫でていた手がピタリと止まった。助かった……？

「そうか。しかし、そなたは私の妃。確かに筋からいけば、見送るべきなのであろうな」
リーンハルト様が微笑んでいる。ああ……なんか、助からなかった気がする……。

「明日の午後、バルナバーシュは出立の前に私のところに来る。バルナバーシュが来る少し前に、そなたも私の執務室に来なさい。執務室の隣に私的な応接の間があるので、そこで挨拶を受けることになっている」

ゴクリと喉が鳴った。本当にお見送りするの？ お見送りだけで済むの……？

§ § §

リーンハルト様に来いと言われてしまった以上、行かねばならない。バルナバーシュ殿下が挨拶に行くよりも早く……ということ支度をして、リーンハルト様のところへ。

「来たか。待っていたぞ」

待たれていたとは。悪い予感しかしません、リーンハルト様。

「もうじきバルナバーシュが来るはずだ。あまり時間がない。こちらに来なさい」

王太子執務室には文官さんや侍従さんと思われる人が結構いて、壁際や扉のところに控えていた。

「次の間^{*}には、そなただけでついてきなさい」

そう言われたので連れてきた侍女さんたちは王太子執務室に居残り、わたしだけ次の間に入る。

もう、緊張で心臓がバクバクいつてる。リーンハルト様は何をするつもりなのか。

次の間は言われていた応接室のようだった。重厚な椅子が二つある。侍従さんと思われる男性が、二つある扉のうちの一つの横に控えている。応接の間だからか、文官さんはこちらにはいない。

リーンハルト様はわたしの手を引いて、人の立っている扉の方へ向かった。扉の横に控えていた侍従さんが黙って扉を開ける。その奥には、小さな仮眠室のような部屋があった。ベッドもシングルサイズ程度の、王子様が使うには小さなものだ。でもこんなところにあるのだから、多分リーンハルト様用の仮眠室なんだろうと思う。

ベッド以外には扉のついた棚が一つあるだけだ。出入口は、入ってきたところの一つだけ。そしてここには誰もいなかった。

二人きり。

ベッドのある部屋で、二人きり。悪い予感がします、リーンハルト様！

「では、寝台の上に乗りなさい。服は着たままでよい」

棚から、なにやら見覚えのあるお道具箱を出したリーンハルト様がおっしゃった。

その箱、すぐく見覚えがあります……。緊縛用の紐とか、媚薬とか入れてある箱ですよね。

「リーンハルト様……こ、ここでは……」

「乗りなさい、アンナ」

ここでリーンハルト様の命令に逆らえるくらいなら、今に至るまでの色々なものが違っていたと思う。わたしには無理だ。

なので諦めて、ベッドの上に乗る。横に箱が置かれる。開けられた箱の中には……。

「縛るので、動かないように」

やっぱり紐！

リーンハルト様は手際よく、わたしの下着を剥ぎ取ってから縛り上げた。足を広げた淫らな格好で。

「リーンハルト様、あの、バルナバーシュ殿下がいらっしゃるのでは」

「そうだな、もう来る。急がなくては」

って言いながら、媚薬の器を手に取りないでください！　でも抵抗できるはずもなく、媚薬をあそこに塗られてしまう……。バルナバーシュ殿下が来るのに、こんな……。こんな。

「隣の部屋にバルナバーシュが来る。扉は少し開けておくので、バルナバーシュが座れば、やつの背中がおそらく見えるであろう。それで見送りはできよう」

いや、そんな見送りは求めてませんでした。そしてこちらから見えるということは、振り返ったら向こうからも見えるのでは。

「リーンハルト様！」

扉を閉めて——！

「声を出すと気づかれるぞ」

息と共に、言葉も飲み込む。

「媚薬を塗ったので、辛くなるかもしれぬな。なので、腕の紐は少し解いてやろう」

「え」

リーンハルト様は、腕を体に固定した紐を解いて、前で手首だけで縛りなおした。前を隠せるように？　どうということかと疑問を浮かべていたら、リーンハルト様が耳元で

繰り返して囁いた。

「声を出すと、気づかれるから注意せよ」

違う……自分でいじれるように……！　できるようにしておいて、我慢させるつてことだ。

そして、リーンハルト様は出ていった。扉は本当に、僅わずかながらも開けたままで。

どうしよう。このまま息を潜めているしかない？　でも、だんだん、媚薬が……息が乱れてくる。いや、息を潜めないと。

痒くて、たまらなくなる。いじりたくなってくる。でも、いじっちゃダメ。声が出ちゃう……。

「リーンハルト殿、この度はお世話になった」

バルナバーシュ殿下が来た……。

「座られよ」

振り返っても見えないように、前を隠さないと。でもいじりたくても、我慢しないと……。

「アンネリーエ殿はいないのだな」

「見送りはしたがっていたのだがな」

……わたしの話をしる……？

「そうなのか？　ならここに呼んでくれればよかったものを」

ちゃんと呼ばれて、ここにいます。……でも、バルナバーシュ殿下に見られるわけにはいかない格好なんです。

「会ってどうする」

「そりゃあ」

「……何がどうなろうと、アンネリーエはもう私の妃だ」

二人は、なんの話をしているの……？

§
§
§

「さて失礼するでしょう」

「ではお見送りしよう」

お、終わる……？　終わったの……？

リーンハルト様とバルナバーシュ殿下がなんの話をしていたのかは、聞こえていたのに何も頭に残っていない。ムズムズして、気もそぞろで、それどころじゃなかった。

細い扉の隙間から、立ち上がるバルナバーシュ殿下に背中が見える。振り返らないでと祈りながら、その背中が扉の細い隙間から消えるのを待った。

……見えなくなった。これで見られる心配はなくなった……？ も、もう、いじつても……。

いや、扉の外には侍従さんがいた。きつとまだいる。まだ、だめ。部屋に戻るまでは。はやく……帰ってきて、リーンハルト様。でないと我慢できなくなっちゃう……。

「我慢できたか」

「リーンハルト様」

ぼーっとしていたけれど、リーンハルト様の声ではっとして顔を上げた。いつの間にかリーンハルト様が前にいて、もう扉は閉まっている。

「では我慢できた褒美をやろうか」

「ま、待ってください！ 扉の前に、人が」

「閉まっても気になるか？」

全力で頷く。

「できれば、お部屋に帰りたい……」

「そなた、そこまで我慢できるのか？」

無理かも……でも。

「仕方のないやつだ」

リーンハルト様は、わたしを緊縛していた紐を解いて……。

「んん……っ」

も、もう、抱きあげられただけで、声が出ちゃう。

「開けよ。今日はもう部屋に戻る」

「かしこまりました、殿下」

扉が応接間の方から開いて、わたしを抱いたリーンハルト様が出ていく。やっぱりすぐ外に侍従さんがいたんだと思うと同時に、声を聞いて、この侍従さんは多分以前に温室でリーンハルト様とやった時に外で待っていた人だと気が付いた。

またこの人に聞かれるところだったのか！

その侍従さんは黙って廊下の方の扉も開け、そしてそのままわたしたちの寝室まで静かについてきて、寝室の扉も開けてくれた。

でも、わたしの理性も、そこまでだった。

「リーンハルト様……！」

「アナ、もう我慢できぬか？」

リーンハルト様のキスに意識が蕩ける。

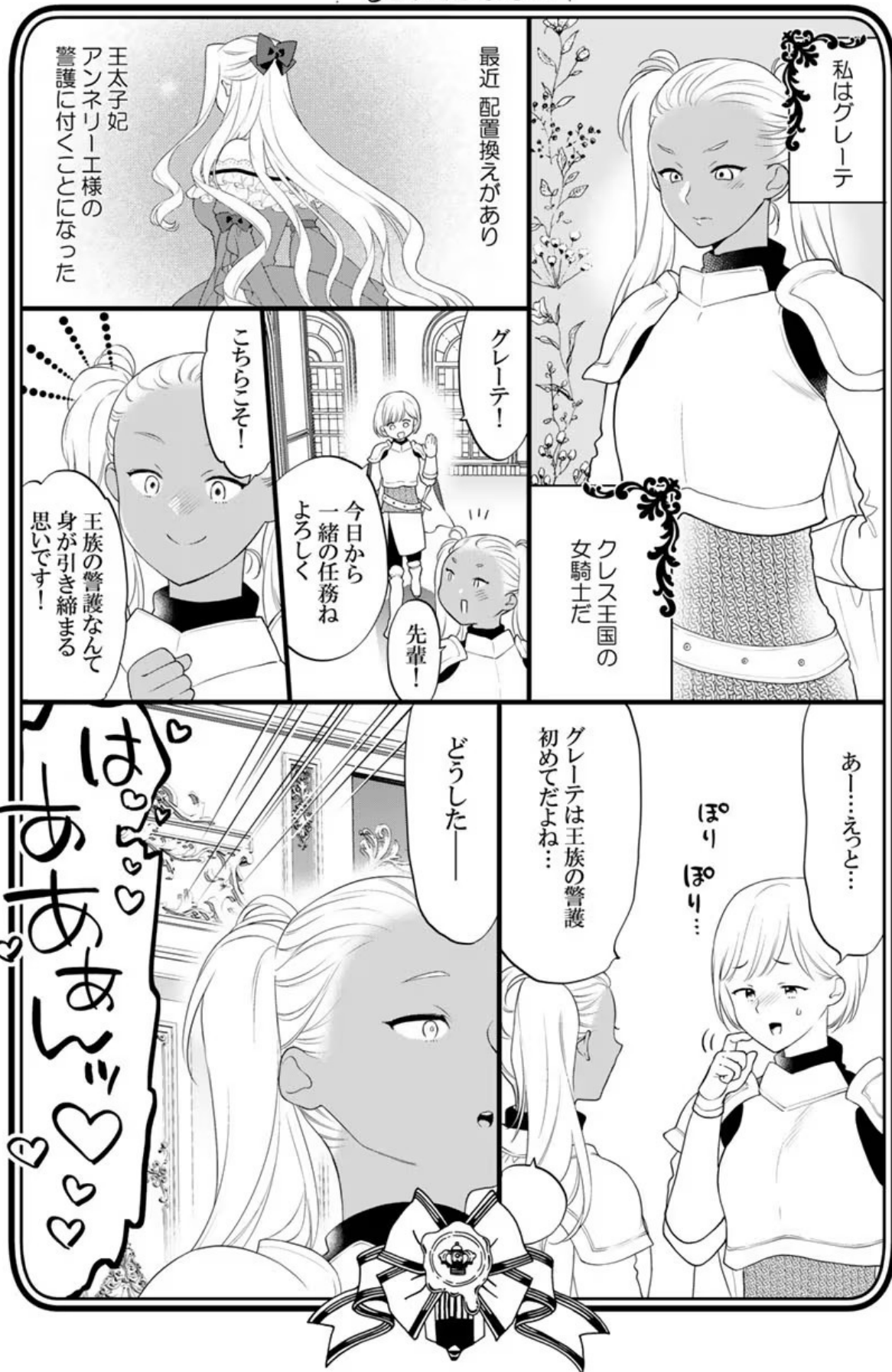
ベッドに押し倒される。

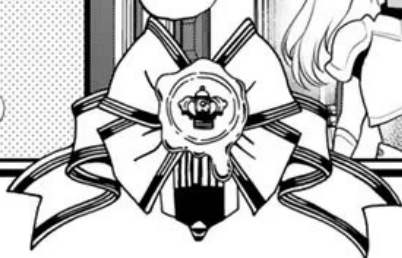
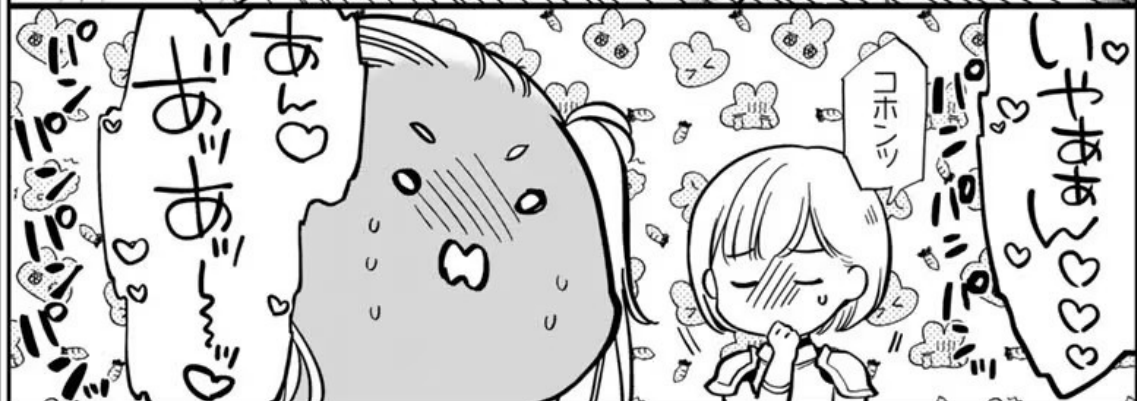
「も、もう……あっ！」

わたしの記憶は……リーンハルト様が、入ってくるまで……。

翌日「あの侍従さんは、いつ扉を閉めたんだっけ」と、溶けて消えた記憶を一日中考え続けたけれど、ついぞその記憶が蘇ることはなかった……。

◆電子限定 おまけ◆







カバーイラスト全体カット

詰める

2

元悪役令嬢は
ドS王子様から
逃げ出したい



Cover Designed by Mirai Araki



詰んでる元悪役令嬢は
ドS王子様から逃げ出したい

ある日突然、乙女ゲームの
悪役令嬢・アンネリーエに転生してしまった杏奈。
攻略対象のイケメンD王子・リーンハルトの
妻として、甘く激しく調教される毎日を過ごしていた。
お妃修業もそこそこに、ついに初めての「夜会」に出席することに。
するとそこで新たな攻略キャラクターである
隣国の王子・バルナバーシュに会い——!?

(元)悪役令嬢とドS王子の転生ラブロマンス、
ライバル登場の第2巻!!

【原作】うすいかつら
【作画】かーみら

発行
幻冬舎
コミックス

《初出》

comicブースト2020.11～2021.08

※「ムーンライトノベルズ」は（株）ナイトランタンの登録商標です。

バースコミックス

詰んでる元悪役令嬢は ドS王子様から逃げ出したい②

2021年 8 月24日 第 1 刷発行

著 者

原作 うすいかつら

作画 かーみら

発行人

石原正康

発行元

株式会社 幻冬舎コミックス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6431

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製（デジタルデータ化も含みます）、放送、データ配信等を行うことは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

©うすいかつら・かーみら／幻冬舎コミックス 2021

ISBN978-4-344-84882-5 C9979 Printed in Japan

幻冬舎コミックスホームページ <https://www.gentosha-comics.net>

本作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには関係ありません。

デジタル版 発行日 2021年 8月24日

製作所 株式会社 二葉企画

本電子書籍に記載のURL、メールアドレス等の情報は、デジタル版発行当時のものです。
予告なく変更になる場合もございます。

詰
んでる
元

悪役令嬢は

ト
S
王子様

から

2

逃げ
出
したい

〔原作〕 うすいかつら

〔作画〕 かーみら